週刊 YEAR BOOK

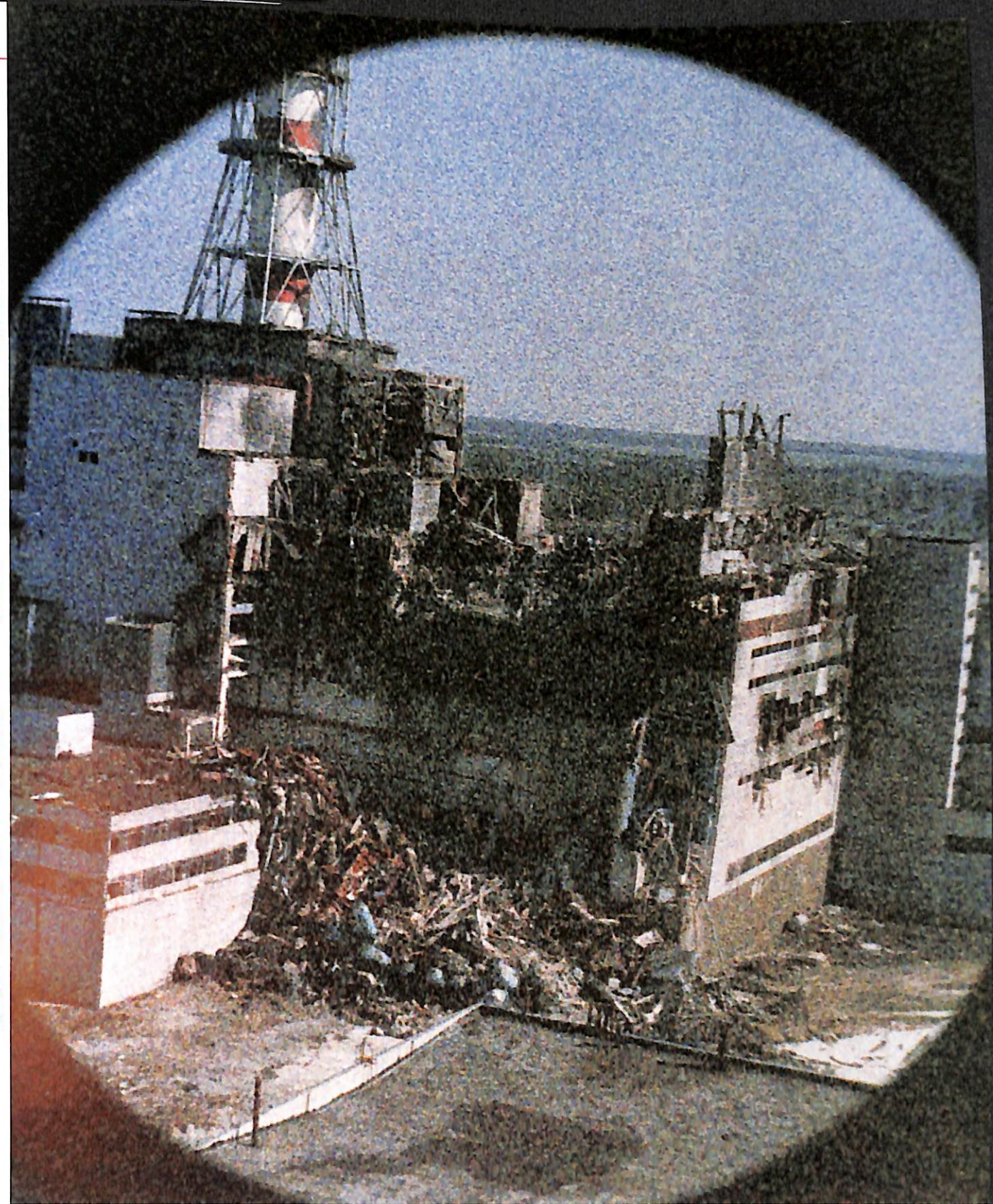
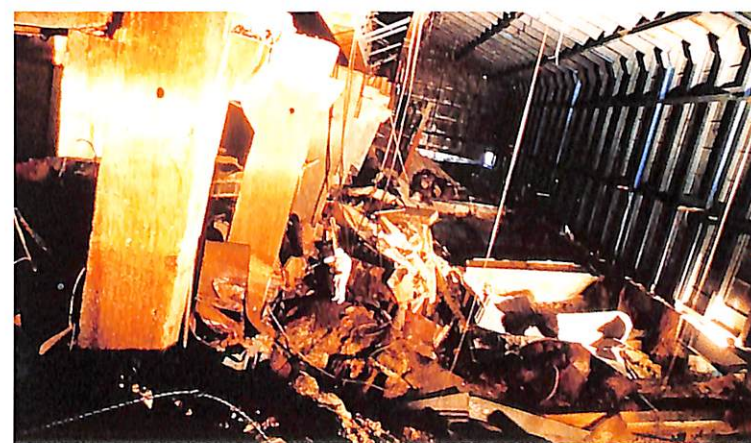
1986
昭和61年

日録20世紀

4|21
平成10年4月21日発行
(毎週1回発行)第2巻第15号
¥560
講談社

三原山大噴火！1万島民"大脱出"の一部始終
鹿川裕史君を自殺にまで追いつめた「いじめ」
アイドル・岡田有希子の死と後を追った若者たち

チェルノブイリ原発事故の恐怖！

世界中に飛び散った一億～三億キュリーの放射能
暴走した四号機原子炉は今なお危機的状況に
史上最悪、チェルノブイリ原発事故の恐怖！

▲爆発したチェルノブイリ原発4号機原子炉の外観。事故直後の5月、ヘリコプターの窓越しに撮影されたもの。　ノーボスチ通信社（下右とも）

▶四号機原子炉を封じこめる工事にたずさわった多くの作業員が、後遺症で苦しむことになった。

◀一九九一年、放射能完全防護服を着用して、四号機原子炉内部を調査。

タス／共同通信社

一九八六年四月二六日、午前一時二四分。ウクライナの闇に火柱が上がり、すさまじい爆発音が響き渡った。世界を震撼させたチェルノブイリ原発事故発生である。すぐさま決死の消火活動が始まったが、暴走した原子炉の火はそうたやすくは消えない。炉の温度が三〇〇度に下がったのは一〇日後の五月六日。その間、大気中には大量の放射能がまき散らされた。

漆黒の闇の中に立つ火柱　炉心は一〇日燃え続けた

一九八六年四月二八日、スウェーデンの国家原子力発電所検査委員会が、大気中に通常の一〇〇倍もの放射能を検出した。「放射能もれを起こしているのは、一体どの原発か？」――検査委員会は、自国の原発をチェックし始めたが、いずれも正常に稼働（かどう）している。

この「正体不明の異常な放射能」のニュースは、またたく間に世界中に伝えられ、さらにフィンランド、ノルウェーなどの国々からも同様の発信がなされた。どこで何が起こったのか、世界の目が北欧に集まった……。

モスクワ放送が事故に関するソ連政府の声明を発表したのは、ニュースが伝わってから二時間半後の午後九時（現地時間）になってからであった。北欧で検出されたヨウ素131やセシウム137、ルテニウム103などの正体は、一二〇〇キロも離れたチェルノブイリからもたらされたものだった。降り注ぐ死の灰のニュースに、世界中がまさに蜂の巣をつついたような状態になった。

事故の発生は、この二日前の四月二六日であった。チェルノブイリ原発四号機では、ある実験が行われていた。これが終わり、原子炉を停止させようと緊急用制御棒の「一斉挿入ボタン」が押された直後、原子炉の暴走が始まり、火柱とともに、屋根が吹き飛んだ。午前一時二四分である。この事故で三一人が死亡、三〇〇人が病院に収容された。

オペレーターたちは、何が起こったのかわからなかったに違いない。何しろブレーキとも言うべき制御棒を入れたのを契機に原子炉が暴走をし始めたのだから、自動車のブレーキを踏んだとたん、猛スピードで発進したようなものである。

とにかく早く火を消すこと、そして避難することがソ連政府の緊急課題になった。当時の様子を原子力資料情報室代表の高木仁三郎（じんざぶろう）氏は語る。

「五月三日、ある講演を終え、楽屋に戻ると、ソ連大使館の書記官が待っていたんです。ソ連政府を激しく非難した後でしたから、これは論争になるなと思いました。ところが意外にも彼は『事故をどう止めたらよいのか、意見を聞きたい』と言うのです。状況の深刻さ、ソ連政府のとまどいが伝わってきました」

実際、炉心は燃え続け、鎮火したのは

▲1986年夏、ヘリコプターから原子炉周辺の大気を採取。すでに建物の密閉工事が始まっている。　イーゴル・コスチン／ノーボスチ通信社

◎表紙　11月21日、伊豆大島の三原山で割れ目噴火が起き、溶岩は大島町元町地区近辺まで流れ下った。　竹内敏信

世界中に飛び散った2億～3億キュリーの放射能
暴走した4号機原子炉は今なお危機的状況に

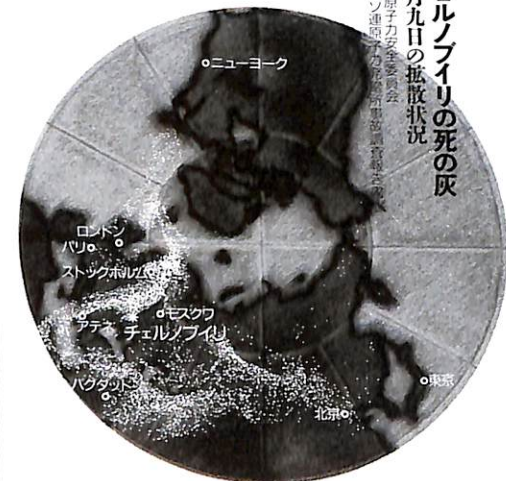
史上最悪、チェルノブイリ原発事故の恐怖！

5月2日、8000キロ離れた日本に死の灰が飛来！

4月26日にチェルノブイリの上空高く舞い上がった、いわゆる「死の灰」は、28日に約1200キロ離れたスウェーデンで検出。その後、西ドイツ（当時）やオーストリア、ポーランドなどでも次々と検出されていった。また、炉心の高熱によって生じた上昇気流が、「死の灰」のうち軽いものを成層圏まで運んだため、世界中が放射能におおわれてしまった。

そして5月2日になって、チェルノブイリから8000キロ離れた日本にも、ついに「死の灰」が降った。1リットルに1万3000ピコキュリーものヨウ素131が含まれている雨水が、千葉で検出されたのだ。これは汚染飲料水の目安である3000ピコキュリーをはるかに超える数値である。

それまでは、原子炉事故で放射能が運ばれる距離は、せいぜい200～300キロと想定されていた。それだけに、8000キロも離れた日本でこれほど高い放射能が検出されたことは、原発の危険度に対する関係者の意識を変えるのに十分な事実だった。

▼「放射能の雲」は、南東の風に乗って北欧からヨーロッパ全土へ。

▲事故による死の灰をあびた両親から生まれた、ダウン症の子どもたち。ミンスク市の「子どもの家」で。　豊崎博光

事故発生から一〇日も経った五月六日のことだった。世界中に飛び散った放射能は二億キュリーとも三億キュリーとも言われている。ラジウム一グラムの放射能量が一キュリーだが、一平方キロあたり一キュリーを超える放射能が検出されると「汚染地域」と呼ばれることからも、この量がいかに莫大なものであるかがわかる。

一〇〇倍にもなった甲状腺癌の罹患率

事故の原因について、高木氏は語る。

「当初は人為ミスに起因する事故と説明されていましたが、現在では原子炉の構造欠陥が主因だとわかっています。実は一九七五年にチェルノブイリと同型の原子炉が、レニングラードで同様の事故を起こしており、制御棒の欠陥が指摘されていました。これが隠蔽されていなければ、チェルノブイリの事故は防げたかもしれません」

ソ連の事故の原因隠しは、その後も続いた。当時、同型の原子炉がいくつも稼働していた同国では、これを止めることはできない相談だった。エネルギー確保のために、原子炉に構造的な欠陥があるとは口が裂けても言えなかったのだ。

その一方で、北欧を中心とするヨーロッパ各国はパニック的状況におちいっていた。汚染地帯で生産された食肉や牛乳、小麦、ワインなどが市場に出回り、人々は食事をとるにもガイガーカウンターで検査するほどだった。こういった食品は日本へももたらされた。翌年の昭和六二年一月九日にヘーゼルナッツ三〇トンから放射能が検出されたのを皮切りに、トナカイの肉や月桂樹の葉など、数多くの食品が空港や港で積み戻しとなった。

そして他の放射能による被害と同様、人体への被害が目に見えて現れてきたのは、事故から数年たってからである。

一九九五年の国連人道援護局の報告書では、汚染地域に住む七〇〇万人を超える人々の約七割が、精神的なダメージから立ち直れないでいるとしている。汚染除去に従事した約八〇万人もの人が、癌や各種の腫瘍、白血病の危険にさらされているという。中でも一四歳以下の子どもの甲状腺癌の罹患率は高く、ベラルーシでは事故以前の三六倍、汚染の激しいゴメリ地区では一〇〇倍にまでも跳ね上がっている。

そしてもうひとつの恐怖が、現在も危機的状況にある〝石棺〟である。事故のあった四号機は放射能がもれぬように、原子炉の鎮火後、急ピッチで封じこめられた。しかし、十分な検討もされないまま四号機を封印した〝石棺〟は構造が脆弱で、今や強い放射能のためにコンクリートはひび割れており、〝石棺〟の内外を鳥が行き来している。この〝石棺〟が崩壊すれば、再び大量の放射能が大気中にばらまかれる可能性もあるわけだ。

じわじわと人体をむしばむ、まき散らされた放射能の影響、そしていつ壊れるともしれない〝石棺〟……。チェルノブイリ、そして原発の問題は、次世紀へ引き継がれる人類全体の課題なのである。

▶被曝地域からウクライナ共和国のコペロボへ避難、放射能汚染のチェックを受ける原発周辺住民

AP　WWP

▲屋上に飛び散ったコンクリート片や鋼材などを取りのぞくため、鉛の服を着る作業員。1986年夏撮影。　ノーボスチ通信社

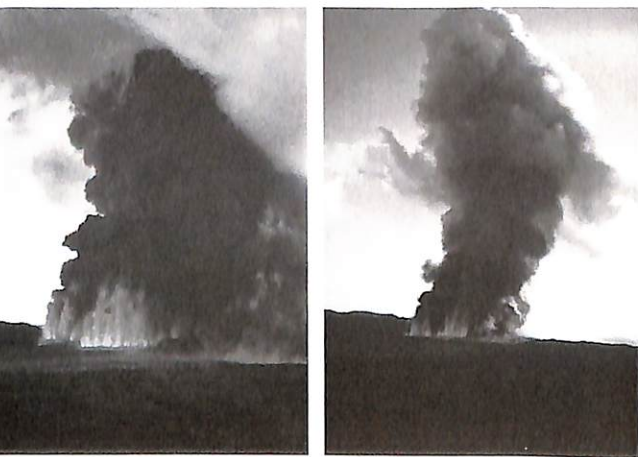
繁華街まで二〇〇㍍に迫った溶岩流

三原山、二〇九年ぶりの大噴火！
わが国初の一万島民「大脱出」の一部始終

世界の三大活火山のひとつとされる三原山が、二〇九年ぶりの大爆発を起こした。新たな火口、割れ目が次々にでき、溶岩流は伊豆・大島最大の町、元町まであと二〇〇㍍に迫った。危機にさらされた島民を前に、大島町長は「全島民の島外避難」を決断する。そして夜を徹した一万人の大脱出作戦が敢行されたのである。

朝日新聞社

南北に生き物のように割れ目噴火が移動した

昭和六一年一一月二一日、島民に「御神火」と慕われていた伊豆・大島の三原山が、突然、悪鬼のような形相に変わった。この日、昼頃から地鳴りが始まり、地震も、二回の震度五を含め、有感地震だけで二四二回を数えた。三原山が響かせる音も、「ゴー」から「ドカン、ドカン」という連続的な爆発音へと変わる。そして午後四時一五分、カルデラ内で割れ目噴火が始まった。しかもそれは、一方は北北西に、他方は南南東に新たな割れ目を作りながら、まるで生き物のように移動していった。空に吹き上がった真っ赤な噴出物は、ナイヤガラの滝のように広がり、噴煙は高さ一万㍍にも達し↖

▶割れ目噴火が始まった11月21日夜、新火口から吹き上がる火柱と噴煙。この夜から、全島民が離島避難を余儀なくされた。

た。そして溶岩流は谷ぞいに、大島最大の町、元町方面に流れ下った。

大噴火は安永六年（一七七七）に次ぎ、二〇九年ぶり、また、割れ目噴火は、足利幕府当時の応永二八年（一四二一）以来、実に五六五年ぶりのことだった。

今回の噴火は、すでに一一月一五日に始まっていた。だが、島民は「またか」と思っただけ。むしろ噴火という「目玉」の出現で観光客がふえるのではないか、と期待する向きもあったほど、気楽にかまえていたのである。

わずか一二時間で島民一万人が避難

町の防災無線が「岡田地区住民は岡田港へ」「泉津地区の住民は公民館へ」という避難命令を伝えたのは、一一月二一日の午後五時一七分だった。これが避難命令の第一号で、その後、次々と各地に避難命令が出されることになる。

午後五時には自衛隊、海上保安庁、東

阿部勝征・東大地震研究所／共同通信社（3点とも）

▲▶割れ目噴火の貴重なプロセス写真。右端が21日午後4時17分、中が同36分、上が同55分。

◀1700人収容の東京・港区スポーツセンターで、共同生活する大島島民。居住スペースは、段ボール箱で〝区画整理〟されている。

共同通信社

海汽船に対し、艦船の待機要請が出されていた。

町役場のある元町から、わずか二〇〇メートルの距離まで溶岩流が迫ったのは、午後九時頃のこと。大島町長の植村秀正（六四）は、島民を避難させるべきか否か、ハムレットのような心境だった。避難命令が空振りに終われば、責任をとらざるをえない。かといって被害が出てからでは、島民一万人の避難は困難だ。

「何といっても大島は面積が九一平方キロしかない、しかも島です。雲仙とはわけが違った。水蒸気爆発の危険も伝えられ、島の北東部には大粒の火山弾が降っていました。溶岩流が元町に近づきつつあった中での全島民の島外避難は、今考えても正しい決断だったと思っています」（植村氏）

こうして、午後一〇時五〇分、植村町長は、全島民に島外避難を命令した。

一万人もの住民が一度に避難した例は、わが国の自然災害史でも例を見ない。

そして避難は、町当局ですら、多少のパニックが起きるのは覚悟していたにもかかわらず、奇跡的と言えるほど整然と行われた。島民は、消防団や警察の指示に従い、誰もがルールを守った。老人、子ども、そして婦人の順に乗船するというルールも、避難に自家用車を使わないという決まりも厳守された。

大島老人ホームのお年寄りの避難は、こうだった。七〇人の入所者のうち、自力で歩ける人は一六人、残る五四人は寝たきりか、車椅子が必要な人たちだった。迎えのバスの運転士や町職員が手分けして、さらしの紐や布団・毛布で急ごしらえの担架を作り、搬送にあたった。港では居合わせた人が、立て看板を担架代わりに使用して、長い船着き場を何度も往復した。こうして、全島民一万四七六人が、延べ七五隻の船で島を離れるまで、わずか一二時間ほどしかかからなかった。

だが、実は島はもぬけの殻となったわけではなかった。約二〇〇人が島に残留したのである。

残った秋田寿・元助役が回想する。

「残留部隊の主力は約一五〇人の機動隊。役場からは私以下六人。そのほかは、東大の観測所や東電のメンバーなどでした。ところが手薄の町役場に、避難した島民からじゃんじゃん電話がかかってきました。避難所に無料電話を設置したからでしょう。『コンセントを抜き忘れた』『湯沸かし器をつけたままなので』『ガスの元栓を閉めなかった』『小鳥が可哀想なので籠から出して』など、要望はさまざまでした。とても六人では手がまわらないので、翌日、各地区に詳しい職員を選んで、ヘリで島まで帰ってきてもらったほどでした」

島民たちの、東京や静岡での不自由な避難所生活は一ヵ月にわたった。まったくプライバシーのない体育館の中の生活は、肉体的にも精神的にも、多大な負担を強いたのである。特にホコリっぽい環境での集団生活で、風邪をひく島民が続出した。

そして、噴火が小康状態となった一二月二〇日から二四日にかけ、島民はほぼ一ヵ月ぶりにわが家に戻ったのだった。

だが、噴火の被害と一ヵ月のブランクは、生活再建の大きな障害となる。漁民は、噴出物のため、島付近の最良の漁場を失った。畜産農家の牛は、従来の飼料を与えると、一ヵ月あまり、下痢を繰り返した。また、安全のため、冷凍庫のスイッチを切っておいた倉庫や商店では、何重に鼻をおおっても、耐えられないほどの腐敗物の臭気に悩まされた。さらに花卉農家は、すでに開花し、出荷時期を失った年末年始用の植物の処分に追われなければならなかった。

この噴火による被害額は、公式発表では二二億円強とされている。しかしその中には、前述のような被害や、さらに全島民の七割が従事する観光業の収入減などは、含まれていないのである。

◀一二月四日に一時帰島が始まり、第一陣の滞在時間は、六時間。この店では家屋は無事だったが、食料品はほぼ全滅状態。

共同通信社

女たちの肖像

第一声は「やるっきゃない」社会党の土井たか子が日本初の女性党首就任

稲葉真弓

「ダサイ　ネクラ」というイメージが先行していた日本社会党が、この年ほど話題になったことはなかった。新聞、テレビは社会党関係のニュースでもちきり。九月六日、副委員長の土井たか子（五七＝本名・多賀子）が日本初の女性党首（一〇代目委員長）に選出されると、フィーバーは最高潮に達し、彼女が就任の際に使った言葉「やるっきゃない」は流行語にもなった。

党執行部が彼女に委員長出馬を要請したのは、党のイメージチェンジをはかるためだったが、作戦は大成功。「朝日新聞」の「人気調査」では、社会党は前回八月調査の五パーセントから一九パーセントと二〇年ぶりにポイント上昇。PR用の土井たか子のテレホンカードは二〇万枚！も売れた。

そして平成元年、消費税反対の旗頭になった折も空前の〝オタカさんブーム〟を巻き起こし、参院選で自民党を大幅に上回る四六議席を獲得、うち二二人が女性議員という〝マドンナ現象〟をもたらした。

政界に足を踏み入れたのは〝カーッとなると翔んでしまう性格〟にあったという。昭和四四年、当時、社会党委員長だった成田知巳に口説かれ衆院選に初出馬した時も、「当選の可能性もないのに立候補するのはバカだ」といった知人の言葉に血が上り、やる気になったものだった。

盆踊りで踊ったり、カラオケ、パチンコが好きといった庶民感覚に加え、竹を割ったような性格や曖昧さを嫌う姿勢が多くの人を引きつけるゆえんだが、私生活では独身、少女時代から男まさりだった。

昭和三年、神戸市内の内科医の次女として生まれた彼女は、幼少時から男の子とメンコや相撲ごっこをして育った。神戸高等女学校では陸上部に入り、選んだ種目は砲丸投げ。いかにもこの人らしいが、京都女子大に入った後、同志社大学学長の憲法学者・田畑忍の講演「平和主義と憲法第九条」を聞いて同志社大学法学部に入学。憲法に目覚めた彼女は、大学院卒業後、母校で憲法の教鞭もとった。成田委員長に口説かれて出馬を決意したのも、憲法第九条への思いがあったからだという。

委員長を三期つとめたが、平成三年統一地方選の惨敗の責任をとって辞職。五年、これも日本初の女性衆院議長となった。現在は社民党党首として行革に躍起の〝オタカさん〟である。

▲歌は民謡とシャンソンが得意。

共同通信社

勝者・敗者

世界を制した六四センチの太腿 プロ・スプリント選手権で中野浩一、一〇連覇達成！

阿部珠樹

「競輪はギャンブル、選手たちはしょせん、さいころの代わりにすぎない」

そんな見方はいまだに根強い。

最近は十文字貴信のアトランタ・オリンピックでのメダル獲得もあって、競輪のマイナスイメージはかなり薄められてきているが、ここまで競輪が社会的に認知されるようになったのは、何といっても中野浩一の功績が大きい。

中野は昭和五〇年、デビューするや、圧倒的な脚力でそれまでの記録を次々に更新し、競輪界の革命児となった。だが、決定的に彼の名を世に知らしめたのは、昭和五二年から始まった世界自転車競技選手権プロ・スプリントの一〇連覇である。スプリントは二人の選手がさまざまなかけひきを繰り広げながら勝負を競う、頭脳と爆発的な脚力を要求される競技で、欧米では高い人気を誇っている。しかし、プロ競輪中心に進んできた日本の自転車競技にとっては敷居の高い種目であった。

しかし、中野の太腿六四センチの爆発力は、そうした壁をいとも簡単に乗り越えた。一〇連覇の大半は完勝、つけいる隙を与えない強さで、金メダルを積み重ねてきたのである。

ただ、昭和六一年、一〇連覇のかかった最後の大会だけは違った。この年、中野は二度の落車事故に遭い、一時は意識不明におちいるなど、選手生命さえあやぶまれる体調だった。九月一日の米コロラド大会世界選手権本番も、決して好調とは言えなかった。だが、いざ試合が始まってみると、やはり中野は強かった。順調に勝ち進み、準決勝、決勝では、三本勝負のレースを簡単に二本先取して勝ちとり、優勝を手にした。三本走るとスタミナを失う。ならば早い決着を。三〇歳のベテランらしい計算が、ズバリあたった。

「今年はみんなに助けてもらった。勝てたのはそのお蔭です」

重圧を乗り越えた不死鳥は最後にようやく笑顔を見せた。

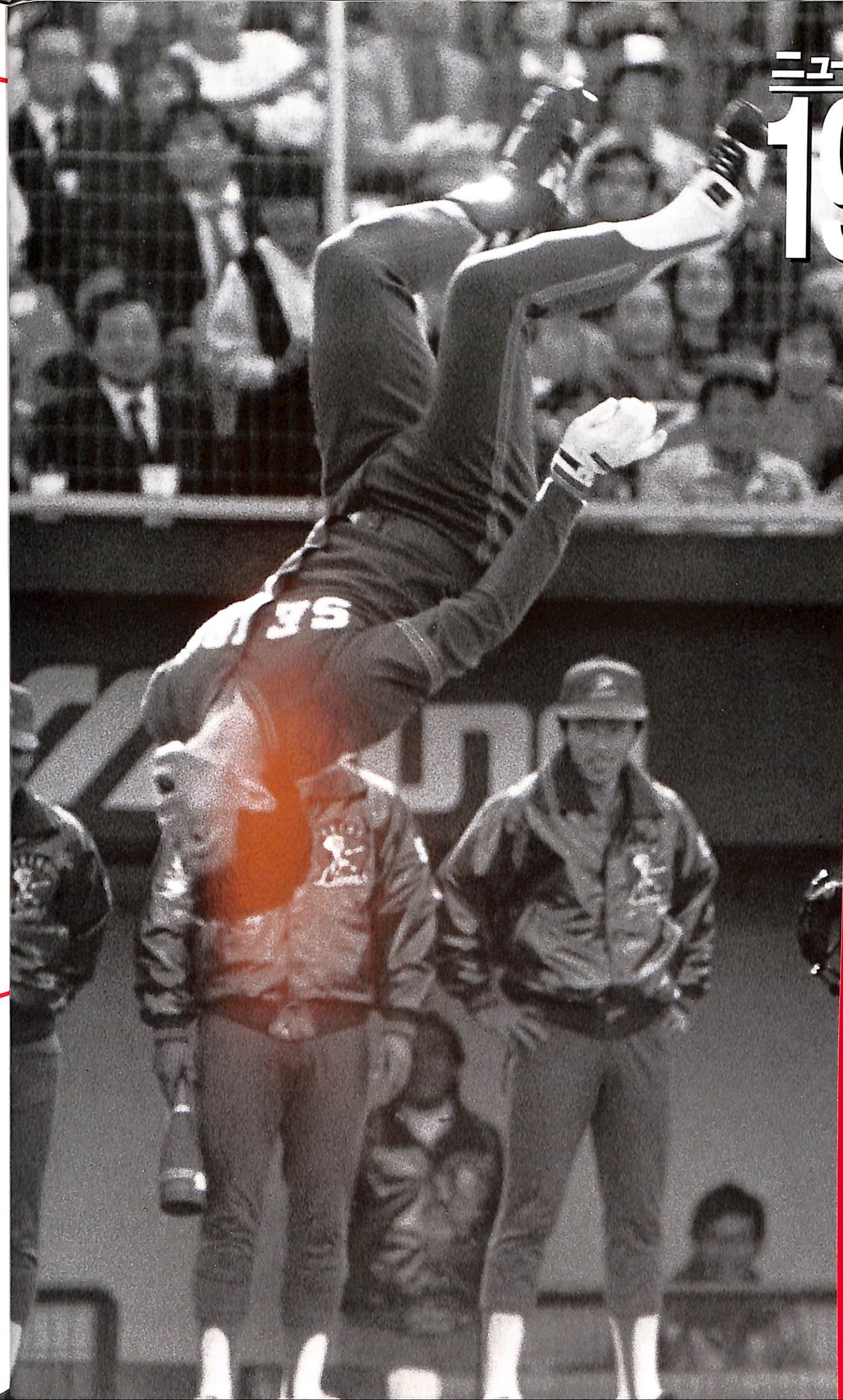
▶この年は、日本選手がメダルを独占。左は銀の松井英幸、中央が金の中野浩一、右は銅の俵信之。

ロイター　サンテレフォト

AP/WWP

▲スペースシャトル「チャレンジャー」爆発(1月28日)フロリダ州の宇宙センターから打ち上げられた直後の事故で、乗組員7人全員が死亡。米宇宙計画は初めて中断、見直しを余儀なくされた。

時事通信社

▲慶大、日本一(1月15日)東京・国立競技場のラグビー日本選手権で、慶大がトヨタ自動車を18対13で破り優勝。学生の日本一は、昭和51年の明大以来。前年まで新日鉄釜石が7連覇していた。

毎日新聞社

▼復帰遠し田中元首相(1月30日)「毎日新聞」のカメラがとらえた、東京・目白台の私邸中庭を、長女・真紀子の押す車椅子で散歩する田中角栄(67)。脳梗塞で倒れてから、1年近くたっていた。

共同通信社

◀南硫黄島近海に新島出現(1月19日)海底火山噴火で次々に溶岩が堆積、一時は長さ800メートルに成長。「南方新領土」が期待されたが、3月8日、太平洋の荒波に没した。

読売新聞社

▶ふえる老人患者(1月)高齢化社会を迎え、病院の待合室は老人でいっぱい。写真は東京・板橋の65歳以上の患者用病院。703床のベッドは常に満員だった。政府は翌62年に老人保健法を改正、自己負担を増額させた。

読売新聞社

▶表層雪崩で13人が生き埋め(1月26日)午後11時頃、新潟県能生町にある権現岳の麓の積雪が、幅200メートルにわたって崩落、23戸の集落のうち11戸が全・半壊した。13人が死亡し、7人が重傷を負った。

昭和61年1月

1(水)●世界で初めて通信衛星を利用して製作された、「朝日新聞」が欧州の主要都市で配達される。
●著作権法改正公布。電算機ソフトを保護。

2(木)●ラグビーで神戸製鋼、七連覇・新日鉄釜石下す。

3(金)●大阪でパロディ独立国三九ヵ国が万国博覧会。

4(土)●米のウラン濃縮施設で放射能もれ。一人死亡。

5(日)●前年の在留外国人は八四万八八五人、一〇年間で一二・三%の増加と法務省。

6(月)●ガソリン輸入解禁。一三社が輸入登録を申請。

7(火)●米、テロ事件理由に対リビア経済制裁発動。

8(水)●NTT、番号案内サービスの有料化を表明。

9(木)●日本プロ野球選手会、労組として初大会開催。

10(金)●橋本聖子、全日本スピードスケートで史上初の総合五連覇、四年連続完全優勝を達成。

11(土)●東京のデパートで国鉄職員の接客研修始まる。

12(日)●ウーロン茶の売り上げが年々倍増と新聞に。

13(月)●東京・山谷争議団幹部、暴力団員に射殺される。
●保健体育審議会、一五年ぶりに学校給食の栄養基準などを改定。ダイエット化をはかる。

14(火)●ロス疑惑の三浦和義初公判。傍聴倍率六一倍。

15(水)●ラグビーで慶大が日本一。学生は一〇年ぶり。

16(木)●韓国人ダンサーに偽装結婚斡旋の一三人逮捕。
●エイズ患者は七五ヵ国で二万八八人とWHO。

17(金)●経済同友会に初の女性会員。石原一子ら五人。

18(土)●日ソ租税条約・日ソ貿易支払い協定に調印。

19(日)●南硫黄島近海で海底火山が爆発し新島誕生。

20(月)●東京でシンポジウム「夫婦別氏を考える」開催。

21(火)●ワシントン連邦高裁、一審判決を退け大戦中強制収容された日系人への補償を認める。

22(水)●恋愛・結婚・不倫の「レディース・コミック」がブーム。一四誌で六〇〇万部発刊と新聞に。

23(木)●「ニューズウィーク日本版」創刊。「リーダーズダイジェスト」日本版最終号、刊行。

24(金)●女子バレー、ダイエーのハイマンが試合中、急死。ダイエー、八八連勝の日立下す。

25(土)●「ボイジャー2号」天王星に接近。衛星を発見。

26(日)●新潟県能生町で雪崩。生き埋めの一三人死亡。

27(月)●電源開発、西独向け環境技術の提供契約調印。

28(火)●米でスペースシャトル、「チャレンジャー」が打ち上げ直後に爆発。乗組員七人死亡。

29(水)●横浜地裁、マンション住民の請求を認め暴力団組長の退去を命令。

30(木)●ゲームソフト「マリオ」大量複製の主犯逮捕。

31(金)●国内初のエイズ家庭内感染者を認定と厚生省。

ニュース・ファイル

1986

フォト+日録で再現する365日

中曽根長期政権のもと天皇在位六〇年記念式典、東京サミット、ダイアナ妃来日など華やかな国家的行事が続いたが、中学校では「いじめ」問題が噴出。七月の衆参同日選で惨敗の社会党に「やるっきゃない」と土井たか子委員長が誕生、「女性の時代」が幕を開けた。

◀西武、日本一(10月27日)プロ野球日本シリーズ対広島戦で第1戦引き分け後、3連敗からなんと4連勝。史上初の8戦目で優勝した。写真は最終戦に同点本塁打を放ち、とんぼをきって生還する西武の秋山選手。

共同通信社

▲アキノ新大統領誕生(2月25日) マルコス大統領4選の不正を糾弾する民衆と、エンリレ国防相やラモス参謀総長代行の退陣要求に、マルコスは逃亡。写真は、自由の「Lサイン」を掲げるアキノとラウレル副大統領。

読売新聞社

◀アケボノゾウの化石公開(2月10日)埼玉県立自然史博物館が、前年12月、狭山市で頭部をのぞくほぼ1体分を発掘した。アケボノゾウは約200万年前に生息していた体高1.5~1.8メートルのゾウ(写真上)。

共同通信社

▼松島トモ子「獣難」(2月17日)ケニアのコラ動物保護区を見物中の1月、ライオンに頭や背中を裂かれ、2月7日にはヒョウに首をかまれた。写真は帰国後、恐怖を語る松島。

読売新聞社

▼東証会員に外国証券会社(2月1日)欧米との金融摩擦解消のため、会員枠を拡大。6社が新たに加わった。この日、さっそく米メリルリンチ証券の外国人場立ちが登場した。写真は会員標識を受ける外国証券会社代表。

共同通信社

▼京都で「古都税問題」紛糾(2月15日)前年7月の施行以降、税徴収反対の寺社が拝観を停止したため混乱。大打撃のバスガイドらが、解決求めデモ(写真)。市は翌年10月廃止と決定、紛争は決着した。

読売新聞社

◀経済同友会に初の女性会員(2月14日)昭和21年に創立の経営者団体に久々、新しい血が注入された。この日初の顔合わせ、写真右から森英恵、田部井昌子、児島絹子、石原一子、奥谷礼子。

共同通信社

昭和61年2月

- 1(土)●東京の中野区立中野富士見中の二年生、鹿川裕史君、「いじめ」を苦に首吊り自殺。
- 2(日)●国民健保赤字の自治体が三倍に増加と厚生省。
- 3(月)●果実に寄生するミカンコミバエ絶滅と農水省。
- 4(火)●市川猿之助、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」を新橋演舞場で初演。
- 5(水)●黒澤明の「乱」、アカデミー賞四部門候補に。
- 6(木)●北陸豪雪。上越市で戦後最高の積雪三二四㌢。
- 7(金)●フィリピンで市民が大統領選不正糾弾の大デモ(22日軍が反マルコス決起。26日マルコスがハワイへ亡命。アキノ大統領組閣)。
- 8(土)●ペットブームで犬猫病院の脱税多いと国税局。
- 9(日)●過去一年間にスポーツをした成人は、六三・二%で減少傾向にあると、総理府が発表。
- 10(月)●宝酒造、英スコッチウイスキー企業トマーチン社を買収、欧米で製造・販売を行うと発表。
- 11(火)●伊豆・熱川温泉でホテル全焼。二四人焼死。
- 12(水)●IOC、プロ選手の五輪参加を承認。
  - ●英仏、ドーバー海峡横断トンネル建設に調印。
- 13(木)●大蔵省、初の短期国債(六ヵ月)を発行。
- 14(金)●津軽海峡で漂流ソ連人救出。米亡命を希望。
- 15(土)●三和銀行、ロイズ系の米銀行を買収と発表。
  - ●厚生省、ピル解禁に向け研究班設置を決定。
- 16(日)●ポルトガルで六〇年ぶりの文民大統領当選。
- 17(月)●警視庁、自動車ナンバー自動読み取り機完成。
- 18(火)●金融機関が第二に加え第三土曜も休業と決定。
- 19(水)●関東地方に三二年ぶり大雪。首都圏(最高積雪一八㌢)で一五八人が転倒により重軽傷。
- 20(木)●ミノルタの自動焦点一眼レフカメラが人気で、出荷台数が五位から首位に躍進、と新聞に。
- 21(金)●中国空軍機、亡命を求め韓国の基地に着陸。
  - ●長寿世界一、一二〇歳の泉重千代、死去。
  - ●文部省、初の「いじめ」と体罰の実態調査発表。公立校で七ヵ月間に一五万五〇六六件。
- 22(土)●日本初の総合ペットフェア、東京で開催。
- 23(日)●年間医療費は一人一三万七七〇〇円と厚生省。
- 24(月)●KDD、日本で初めてハッカーが侵入と発表。
  - ●昭和軽金属、円高でアルミの精錬を停止。
- 25(火)●篠田正浩監督・岩下志麻主演「鑓の権三」、ベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞。
- 26(水)●自動車労連の塩路一郎、労働界引退を表明。
- 27(木)●トリクロロエチレンなどによる地下水汚染が一九都道府県に拡大、と環境庁調査。
- 28(金)●スウェーデンのパルメ首相、暗殺される。

▲春の大雪で首都圏に事故続発(3月23日)西武新宿線田無駅では、停車中の電車に急行電車が追突し205人が負傷、八王子市では映画館の屋根が崩落。厚木市では、倒れた高圧送電線の鉄塔が乗用車を直撃、車内の人が重傷を負った(写真)。

共同通信社

▼つくば博パビリオン、日本初のハイテク解体(3月6日) 最後まで残っていた「国連平和館」に、米CDI社のコンピュータにより爆薬を1200ヵ所に設置。点火後、高さ24、直径41メートルの球形シェル建築物がわずか3.8秒で崩壊した。

読売新聞社

タス/共同

▲ハレー彗星の素顔(3月6日)76年ぶりの地球接近をとらえ、探査機6機を打ち上げた米、ソ、日、欧州の各宇宙機関が観測データ獲得にしのぎを削った。写真はこの日ソ連探査機「ベガ1号」がとらえた、彗星のコンピュータ解析映像。4月11日、地球に最接近した。

▼シンガポールでホテル倒壊(3月15日)1階の床に亀裂が走った直後、7階建てビルが崩れ落ち、客ら81人が生き埋めになり、33人が死亡した。写真は、瓦礫の山からの救出作業。

ロイター・サン/共同

PANA通信社

▲ワダ・エミ、アカデミー賞受賞(3月24日)黒澤明監督の映画「乱」で1400着の衣装をデザイン、それが評価された。写真右はプレゼンターをつとめた女優のA・ヘプバーン。

読売新聞社

▲住銀、平和相銀を吸収合併(2月21日)預金量は、第一勧銀に次ぎ国内第2位に。乱脈経営がたたった平和相銀は10月1日、首都圏から消えた。写真は覚書調印後の小松康住銀頭取(左)と田代一正平和相銀社長。

昭和61年3月

- 1(土)●運輸省航空大学校に初めて女性が合格。
- 2(日)●交通公社が国電借り切り山手線一周ツアー。
- 3(月)●全日空、初の国際定期便グアム線の運航開始(7月16日米本土に定期便就航)。
- 4(火)●野村証券、日本初のロンドン証取会員権取得。
- 5(水)●青函トンネル内で北海道と本州の線路結合。
- 6(木)●国語審、現代仮名遣い答申。四〇年ぶり改訂。
  - ●海外直接投資残は米英に次ぎ三位とジェトロ。
- 7(金)●ゲームソフトに弊害表示を義務化と通産省。
- 8(土)●中曽根首相、天皇在位六〇年恩赦なしと表明。
- 9(日)●人事院、国家公務員の女性保護規定を緩和。
- 10(月)●EC、貿易不均衡解消の「対日基本戦略」決定。
- 11(火)●教員の四六%が体罰を容認と国民教育研調査。
- 12(水)●岐阜県瑞浪市化石博物館、前年に庄原市で発見した化石は、一五〇〇万年前の真珠と断定。
- 13(木)●東証一部の株価時価総額が二〇〇兆円を突破。
- 14(金)●上場企業の四分の一が財テクと三菱銀行調査。
- 15(土)●日本陸連、選手が海外で獲得した賞金は所属団体へ強化費とし、還元と決定。
- 16(日)●写真家・石川重弘、フィリピンのモロ民族解放戦線に誘拐され、以来一年ぶり救出される。
- 17(月)●生保加入平均は一五〇五万円と郵政省調査。
- 18(火)●会社訪問解禁日を八月二〇日に繰り上げ決定。
- 19(水)●日本映画学校、川崎市に開校。校長・今村昌平。
- 20(木)●仏首相にシラク就任。保革共存政権へ。
  - ●マツダ、米の子会社求人に応募四二倍と発表。
- 21(金)●新選抜法導入五年目の都立高、学力の高い受験生の入学回避が一層進み深刻に、と新聞に。
- 22(土)●東証、株価上昇で一般投資家は慎重にと警告。
- 23(日)●西武鉄道田無駅で電車追突。二〇五人重軽傷。
- 24(月)●ワダ・エミ、黒澤明「乱」の衣装デザインでアカデミー賞最優秀衣装デザイン賞を受賞。
  - ●宮内庁、美智子妃が子宮筋腫を手術と発表。
- 25(火)●過激派、皇居と米大使館へ火炎弾ゲリラ。
- 26(水)●名古屋新幹線公害訴訟で原告と国鉄が和解。
- 27(木)●最高裁、参院選の定数格差五・三七倍に合憲。
- 28(金)●通産省、電力・ガス料金の円高差益還元決定。一世帯一ヵ月、電気四〇〇円、ガス五〇〇円。
- 29(土)●米のSDI(戦略防衛構想)研究参加に向け政府と民間企業二一社の合同調査団が出発。
- 30(日)●古都保存協力税に反対する清水寺など京都の九ヵ寺、志納金(寄付金)方式で開門。
- 31(月)●四八年にロボトミー手術を受けた札幌市の男性、精神病院長・執刀医と賠償支払いで和解。

◀夜明けの山谷で市街戦(4月3日) 新左翼系の山谷争議団と暴力団・日本国粋会金町一家が、瓶や屋根瓦などを投げ合った。山谷争議団が労働者の待遇改善を求めて、手配師追放をはかったため、両者は抗争を繰り返し、1月には争議団メンバーが射殺されていた。

押原譲

共同通信社

▲山下泰裕六段(28)結婚(5月5日) 花嫁は会社役員の長女、小野みどりさん(27)。山下はロス五輪金メダルなど203連勝して引退。「私の勝負はこれから」と述べた。

▼アイスクリームに行列(4月) 東京・青山3丁目の「ハーゲンダッツ」に続き、西麻布の「ホブソンズ」も長蛇の列。若者たちには並ぶことが楽しいファッションだった。

◀天皇在位60年記念式典開催(4月29日) 天皇誕生日のこの日、満85歳の長寿の祝いも兼ねて東京・両国の国技館で挙行。写真は中曽根首相の万歳にこたえられる天皇。社共両党は出席しなかった。

▶米軍、リビアに報復(4月15日) 首都トリポリを爆撃、最高指導者カダフィ大佐の住居兼司令部は全壊した(写真)。市内では死傷者を出したが大佐は無事。「国際テロへの断固たる姿勢」のためだった。

AP／WWP

▼岡田嘉子(83)ソ連へ帰国(4月22日) 人気女優だった戦前、演出家・杉本良吉とソ連へ亡命「国境を越える恋」と騒がれた。昭和47年に34年ぶりに帰国、以来日本で暮らしていた。

鈴木幸輝

藤内弘明

読売新聞社

昭和61年4月

1(火) ●男女雇用機会均等法、施行。
●大協・丸善・コスモ合併しコスモ石油発足。

2(水) ●ヤクルト選手会、プロ野球選手会脱退を表明。

3(木) ●厚生省、病院給食の外部委託を認めると通知。
●円高で在外公館職員の手当を一二㌫減と決定。

4(金) ●国鉄、職員七万人に企業人教育実施と発表。

5(土) ●米女子大五校、留学生面接試験を東京で実施。

6(日) ●東京都の新庁舎、丹下健三案に決定。

7(月) ●経済構造調整研究会、座長・前川春雄の「前川リポート」答申。内需拡大型への転換を提言。

8(火) ●アイドル歌手の岡田有希子、飛び降り自殺(以後二週間で少年少女二八人が自殺)。

9(水) ●東京高裁、厚木基地公害訴訟で住民全面敗訴。

10(木) ●法隆寺派遣の「昭和の遣隋使」一〇二人、北京の広済寺で舞楽法要を挙行。

11(金) ●ハレー彗星が六三〇〇㌔まで地球に最接近。
●企業六〇歳定年制を義務化する法改正成立。

12(土) ●日航機墜落事故の遺族、日航・米ボーイング社・運輸省を刑事告訴。監督官庁告訴は初めて。

13(日) ●宇部市で暴力団員が仲間殺し警官隊と銃撃戦。

14(月) ●茨城県の列車内で高校生二人に喫煙を注意した会社員が暴行を受け重傷。

15(火) ●米軍、リビアの首都を爆撃。市民多数が死傷。

16(水) ●写真家・濱谷浩、米ICP巨匠賞を受賞。

17(木) ●キリンビールとトキタ種苗、バイオ利用したキャベツと小松菜との交配野菜の種を発売。

18(金) ●日本IBM、世界初の一㍋DRAM搭載大型汎用コンピュータの出荷を開始と発表。

19(土) ●元の形に戻る「形状記憶合金」が、下着、メガネ、医療器具など各方面に広がると新聞に。

20(日) ●マラソンの瀬古利彦、ロンドンマラソンの賞金五万㌦を寄付などで社会に還元と表明。

21(月) ●四三団体が東京で緑の団体協議会の設立総会。

22(火) ●女優・岡田嘉子、滞日一三年でソ連に帰国。

23(水) ●南アで黒人の国内移動制限パス法を廃止。

24(木) ●世界九九都市の生活費比較で東京が一位、ニューヨークの一・五倍、とスイス社発表。

25(金) ●警視庁、天皇在位六〇年記念式典と東京サミットのため、三万人の厳戒態勢を始める。

26(土) ●ソ連のチェルノブイリ原発で原子炉が爆発。

27(日) ●植物状態患者が年ごとに急増と厚生省調査。

28(月) ●日立、ガス放電式の壁かけテレビ実験に成功。

29(火) ●政府主催の天皇在位六〇年記念式典を開催。

30(水) ●前年度の国際収支黒字は一・五倍増と大蔵省。

▲ダイアナ・フィーバー(5月8日) 英国のチャールズ皇太子夫妻が来日。11日の東京・青山通りのパレードには、ダイアナ妃の華麗なロイヤル・スマイルに魅了された9万人が殺到した。

共同通信社

証言・あの日この日
宮崎　緑(28)

3月23日(日) 〈関東地方を麻痺させたお彼岸の大雪は、まさに文明社会の弱さを浮き彫りにするものだった。／ぼた雪の重みで高圧電線の鉄塔が倒れ、神奈川県は広い範囲にわたって停電と断水に見舞われたのである。／その時、私はマイコンに向かっていた／エレガンスなのができそう。もう一息。悲劇が起きたのはその時だった〉(宮崎緑「電気の切れ目が、"文明の切れ目"」)

NHK「ニュースセンター9時」のキャスター・宮崎緑は鎌倉に住んでいる。この日、関東地方は大雪だったが、この雪で交通網は遮断され、停電や断水で市民生活はめちゃめちゃになった。特にマイコン、テレビは停電に弱い。〈電流の切れ目が縁の切れ目……完成間近のプログラムは、停電とともにあとかたもなく消えてしまった〉、彼女は〈文明って何だろう〉と思う。 (山崎行太郎)

▼三重県四日市市でプロパン爆発(5月17日) 国道1号線脇の燃料会社でガス詰め替え作業中に出火、ボンベに次々引火した。人家が少なかったため、作業員二人の負傷ですんだ。原因はガス取り扱いの不手際。

読売新聞社

ロイター／サンテレフォト

◀「ダーティー・ハリー」市長就任(4月8日) 人気俳優クリント・イーストウッド(55)が、米西海岸の高級保養地カーメル市長選に大差で当選。写真は、翌月の初市議会にのぞむ新市長。

▶東京サミットに迫撃砲(5月4日) 会議場の東京・赤坂の迎賓館に、過激派が警備陣の虚をつき5発発射。弾丸は目標をはずれ被害はなかった。写真は新宿のビル4階で見つかった発射筒。

共同通信社

共同通信社

▲▶佐藤・若狭、二審も有罪(5月) ロッキード事件全日空ルートで、東京高裁が14日は元運輸政務次官・佐藤孝行(58、右)に、28日は元全日空会長の若狭得治(71、上)に判決。佐藤は刑が確定した。

共同通信社

昭和61年5月

1(木) ●撚糸工連事件で自民党の稲村左近四郎と民社党の横手文雄両議員が収賄罪で起訴される。

2(金) ●環境庁、中国奥地生息の野生朱鷺の写真公開。

3(土) ●スリランカの空港で旅客機爆破。二二人死亡。

4(日) ●東京サミット開催。中核派、迫撃砲ゲリラ。

5(月) ●ソ連からの帰国者四五人から放射能検出。

6(火) ●EC、ソ連の原発事故による汚染を警戒し、ソ連・東欧七ヵ国からの生鮮食糧輸入を禁止。

7(水) ●日本体育協会スポーツ憲章(新アマチュア規定)制定。広告出演や賞金を容認。

8(木) ●英皇太子夫妻来日(ダイアナ・フィーバー)。

9(金) ●日中政府、永住帰国した中国残留孤児の養父母に孤児一人の扶養費五九万円支払いで合意。

10(土) ●都内で雪印製品に青酸化合物混入と判明。

11(日) ●ソ連国営テレビ、原発事故を初めて放映。

12(月) ●東北・上越新幹線沿線の五割で騒音基準超過。

13(火) ●米の著名科学者ら六五〇〇人、SDIを拒否。

14(水) ●東京高裁、ロッキード事件全日空ルートで佐藤孝行衆院議員に有罪判決(7月有罪確定)。

15(木) ●小包取り扱い伸び宅配便の影響減少と郵政省。

16(金) ●日本美術院、東大寺の快慶作・国宝座像の頭部内にある五輪塔をX線で発見し写真を公開。

17(土) ●四日市市の燃料会社でプロパンが大量爆発。

18(日) ●団塊の世代の役職不足深刻と人事行政研究所。

19(月) ●広島県、『被爆者白書』作成。白血病が多発。

20(火) ●小売業協会など、大型間接税反対集会を開催。

21(水) ●米下院、日本の半導体市場開放要求案を可決。

22(木) ●クラスの三分の二以上は落ちこぼれと見ている高校教師が四九㌫、と全国教育研究所連盟。

23(金) ●韓国基督教会協議会、日本は「過去の罪科に無反省」と一〇月の皇太子訪韓計画に反対声明。

24(土) ●日ソ漁業交渉妥結。日本の割当は三五㌫減。

25(日) ●スト激減で労働損失日数は過去最低と労働省。

26(月) ●大阪地裁、天皇の署名コピーで作成のビラ押収した大阪府警に表現の自由侵犯で有罪判決。

27(火) ●ファミコンソフト「ドラゴンクエスト」発売。
●日本の対外純資産額が世界一にと大蔵省発表。
●日本を守る国民会議編の高校教科書『新編日本史』、検定合格(中韓からの批判で修正)。

28(水) ●東京の赤坂・六本木に「アークヒルズ」開業。

29(木) ●アフリカで一七九〇万人が飢餓状態と国連。

30(金) ●民間の能力導入をはかる「民活法」公布。

31(土) ●森繁久彌主演の「屋根の上のヴァイオリン弾き」、通算九〇〇回目の最終公演行う。

▲海洋調査船「へりおす」沈没(6月17日) 日本浅海研究所所属で9人乗り。処女航海中、時化に遭い福島沖で沈没、7月に引揚げられた(写真)。原因は設計ミス。

▲朱鷺の雌、死ぬ(6月5日) 衰弱死で、佐渡島・保護センターが夢見た、特別天然記念物の繁殖はかなわなかった。平成9年末では、1羽を残すだけになった。

▼ガソリン、安売り合戦(6月) 円高と原油価格暴落で、競合が激しい地域では価格は日替わり状態。東京・足立区には1リットル99円の店も出現した(写真)。

渡部純一

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲アルゼンチン優勝(6月29日) 第13回ワールドカップ決勝で、得意の攻撃サッカーが冴えた。写真は、マラドーナが準々決勝で「神の手だ」と言った、疑惑のゴールシーン。

▲二重体児のベトちゃん・ドクちゃん入院(6月19日) ベトちゃんが急性脳炎で意識不明となり、東京・広尾の日赤医療センターに入院。10月、治療を終え故国ベトナムへ帰国した。

日本電波ニュース社

▼NTT、初の株主総会(6月26日) 公社から民間企業になったが、株主は蔵相代理の理財局次長一人。10月に売り出された額面5万円が超人気で、株価は119万7000円。

共同通信社

昭和61年6月

1(日) ●上野動物園のパンダ出産(トントンと命名)。●住民基本台帳法改正。閲覧など手続き厳格化。

2(月) ●中曽根首相、衆院解散(「寝たふり解散」)。

3(火) ●輸出立国から輸入立国へ転換をと『通商白書』。

4(水) ●日教組、中国との初の教科書研究交流事業として『南京大虐殺』の邦訳を刊行。

5(木) ●小銭ずしの太田博之、監禁容疑で逮捕。●佐渡で朱鷺の雌が死亡。生存は二羽に。

6(金) ●個人貯蓄総額が五〇〇兆円突破と日銀速報。

7(土) ●広島の衣笠祥雄、二〇〇〇試合連続出場達成。

8(日) ●劇団・夢の遊眠社、十周年記念で一〇時間公演。

9(月) ●九大法学部、推薦入学制度導入を発表。

10(火) ●行革審、最終答申。「増税なき財政再建」継続。●藤森照信・赤瀬川原平らの路上観察学会発足。

11(水) ●最高裁、「北方ジャーナル」訴訟で、名誉権を認め出版差し止めを合憲と判決。●胃癌の告知希望は五七㌫と厚生省調査発表。

12(木) ●南ア政府、全土に非常事態宣言を発し、黒人活動家ら一斉検挙(16日大規模黒人スト)。

13(金) ●男女雇用機会均等法により新潟市に初の女性クレーン操縦士誕生、と新聞に。

14(土) ●大学の都心脱出進み八王子に二〇校と新聞に。

15(日) ●千葉ポートタワー完成。高さ一二五㍍。

16(月) ●初の籤つき暑中見舞いはがき発売。

17(火) ●調査船「へりおす」、福島沖で沈没。九人死亡。

18(水) ●国大協、文部省の「新テスト」受け入れ決定。

19(木) ●枯葉剤によるベトナムの二重体児、ベトちゃん・ドクちゃん、治療のため来日。

20(金) ●メイプルリーフ新金貨発表会、東京で開催。

21(土) ●首都圏で一〇年間で三億円窃盗の空き巣逮捕。

22(日) ●開業医の平均年齢が五七・八歳、一〇年間で一〇歳高齢化したと新聞に。

23(月) ●労働省、連続一週間以上の夏季休暇を提言。

24(火) ●一~三月の経済成長は二・一㌫減、円高による輸出不振で一一年ぶりマイナス成長と経企庁。

25(水) ●中小不動産業者の九割が脱税と東京国税局。

26(木) ●心臓病が脳卒中抜き死因の二位と厚生省調査。

27(金) ●長野地裁、石綿塵肺訴訟で二社に賠償命令。

28(土) ●ダイエーと西友が紅茶・洋酒などを並行輸入し、一~二割引きで販売、と新聞に。

29(日) ●サッカーW杯でアルゼンチン二度目の優勝。

30(月) ●国鉄、希望退職者二万人の募集を開始。●ソ連でパステルナーク著『ドクトル・ジバゴ』発行(故パステルナークの名誉回復へ)。

「現場」を歩く 大手町

昨年は五羽が飛び立ったカルガモ親子の"聖域"

山本徹美

昭和六一年六月一七日午前四時四三分、東京・大手町にある三井物産ビルの人工池で生まれて育ったカルガモの幼鳥九羽が母ガモの先導で、内堀通りを横断、皇居の大手濠へと移動した。

「丸の内署員による規制で車の途絶えた幅四〇㍍の通りを一列になって横断。池を出てから約一五分で、(カルガモの)一家は第二の故郷となる大手濠に無事たどり着いた。車を止めて協力したドライバーやファン約一〇〇人が二重、三重の人垣をつくり、(中略)どっと歓声がわき上がり、涙を流して感激するファンも出るほど」(「読売新聞」六月一七日夕刊)

カルガモが人工池に初めて飛来したのは五八年五月。人知れず池の隅に立つ高さ約六㍍の排気筒に営巣した。孵化した子ガモが親ガモの後を追って、筒上から下の池へ決死のダイブをする姿が目撃され、三井物産社員の知るところとなる。同社では「ミニ・サンクチュアリ(保護区)計画」を立案。とりあえず、ビルメンテナンスを担当している傘下の物産不動産に飼育を依頼、親子に餌を与え、翌年までに排気筒下に人工島を造り、樹木を植え、巣箱を設けることにした。

五九年、またも飛来したカルガモを追って「東京新聞」が連載記事を開始。六〇年には、新聞だけでなくテレビ局も取材に訪れ、人気沸騰。人工池の周辺は常時一〇〇人前後の見物客でにぎわった。

▲三井物産ビルの人工池。写真中央の建造物が最初に営巣した排気筒。 但馬一憲

サンクチュアリの安らぎ

平成九年一二月、人工池に行ってみた。この時期、カルガモはお濠に移動していて姿はない。池の面積は八六三平方㍍、水深約二五㌢で底には砕石が敷きつめてある。水量は約三〇〇㌧。防火用水とあって、魚などはおらず、池だけ眺めていてもさして感興は湧いてこない。カモの親子が泳いでいるのとそうでないのとでは、明らかに情景が違うと思った。

物産不動産では昭和六三年以降、カルガモレディを選出、問い合わせに対応している。三代目の松本亜紀さんに訊く。

「最近の子ガモたちは、自分で飛べるようになるまで人工池にいます。歩いて道路を横切る『冒険』はしていません」

平成九年度の親ガモ初飛来は四月中旬で、子ガモ四羽のお目見得が六月二日。翌日、テレビ局が一社その姿を放映したのと、四日、新聞が人工池で野外コンサートを行っているという記事のからみで取り上げた程度。その子ガモたちが去った後、七月二六日にはまた別の子ガモが一羽孵化して現れたが、報道はまったくなし。マスコミもすっかり遠ざかった。

「カルガモがいる期間、女子社員たちはたいてい池のベンチでお弁当を食べています。カルガモの母と子の触れ合いに接していると、自然に心がなごみます」(松本さん)

ビルの谷間にまぎれこんだ野生の鳥が、都会生活に疲れた人の心を癒す。サンクチュアリを与えられたのは、むしろ人間の方ではあるまいか。

日刊スポーツ

▲大手濠に到着すると、母ガモはしりごみする9羽の子ガモの目の前で、濠の中へ飛びこんでみせた。

ベストセラー
堺屋太一『知価革命』が示す脱工業化社会へのビジョン

一九八〇年代に入り産業構造が大きく変化していく中、時代を見通すような視点が求められた。そんな需要にこたえて刊行されベストセラーになったのが、堺屋太一の『知価革命』だった。脱工業化社会の先は何か、どんな社会が来るのかという疑問に、この本は大胆に答えた。これからは〝知恵〟が豊富な時代になり、知恵の値打ち、すなわち〝知価〟が支配的になる社会が来ると予測したのである。かつて産業革命において、その工業的大量生産体制ゆえに、生産手段と労働力が分離したのとは逆に、今度は生産手段と労働力が一体化する——このような予測が的確であるかどうかは別にしても、現在から未来へのビジョンを明確に示したことは、高く評価された。

不安が漂う時代を反映して、細木数子の六星占術による『自分を生かす相性・殺す相性』がよく売れた。六星占術というのは、生年月日から〝運命星〟を割り出すと、その人の性格から、家庭運、セックス、財運、適した職業まで把握できるというもの。そのうえ、他人についても、その生年月日さえわかれば、同じように性格などを把握できるだけでなく、二人の相性まで知ることができるようになっている。簡単にして明瞭な占いだっただけに、爆発的な人気を呼んだ。

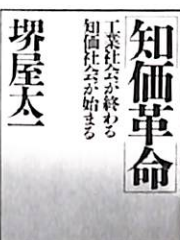
社会的にもセックスにも未熟な若い女性を、自分の思いのままに育てていくという、多くの男性が描く夢物語を、現代に実現させたかのような渡辺淳一の小説『化身』もヒットした。「日本経済新聞」に連載されていた小説の単行本化で、この年すぐに映画にもなり、宝塚出身の黒木瞳がヒロインを演じ、しかもヌードを披露して話題になった。

●昭和61年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「スーパーマリオブラザーズ完全攻略本」(ファミリーコンピュータマガジン編集部編／徳間書店)
2位	「自分を生かす相性・殺す相性」(細木数子／祥伝社)
3位	「スーパーマリオブラザーズ　裏ワザ大全集」(フタミ企画編／二見書房)
4位	「化身(上・下)」(渡辺淳一／集英社)
5位	「日本はこう変わる」(長谷川慶太郎／徳間書店)
6位	「知価革命」(堺屋太一／PHP研究所)
7位	「うつみ宮土理のカチンカチン体操」(うつみ宮土理／扶桑社)
8位	「運命を読む六星占術入門」(細木数子／ごま書房)
9位	「ツインビー完全攻略本」(ファミリーコンピュータマガジン編集部編／徳間書店)
10位	「大殺界の乗りきり方」(細木数子／祥伝社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『自分を生かす相性・殺す相性』(900円)

▲『化身(上)』(上下各980円)

▲『知価革命』(1200円)

スターと名場面
内田裕也・たけしコンビがテレビ時代に皮肉な視線！

時代をそのまま切り取ったような映画「コミック雑誌なんかいらない！」(滝田洋二郎監督)が話題になった。いつも「何かひとこと」と繰り返しながら取材相手に食い下がる、ワイドショーのレポーターが主役。ロス疑惑、金の先物取引など、実際の事件を題材にしながら、時代を自虐的に描き切る喜劇だった。突撃レポーター役の内田裕也と報道陣の目の前でテロを実行する男を演じたビートたけしが、テレビ時代にシニカルな視線を投げかける演技を展開してみせた。

一方、時代をさかのぼり、戦時中の生体解剖疑惑に迫った「海と毒薬」(熊井啓監督)も評判を呼んだ。遠藤周作の小説を映画化したもので、モノクロームの映像から、この生体解剖にかかわったベテラン医師や若い医師、看護婦たちの意識のありようが浮かび上がってくる、不気味なところのある映画だった。

また、映画作りそのものをテーマにした松竹五十周年記念作品「キネマの天地」が公開されたのもこの年だった。山田洋次監督が映画への思いをこめて撮った作品で、大戦前後の厳しい状況の中で多くの映画人たちが燃やした情熱と、そこから生まれる感動が伝わってきた。

▲「コミック雑誌なんかいらない！」で、シニカルなところのある〝突撃レポーター〟役を演じた内田裕也(中央)。

▼「キネマの天地」では、同じ山田洋次監督の寅さんシリーズのコンビ、渥美清(左)と倍賞千恵子(右)も登場し、新人の有森也実(中)をもりたてた。

松竹提供

▲「海と毒薬」で、生体解剖に懐疑的な医学生を演じた奥田瑛二(左)と、現実的な対応をする医学生役で好演した渡辺謙(右)。　キネマ旬報社提供

モノ語り'86
〝朝シャン〟〝抗菌〟と強まる清潔志向の中で「シャンプードレッサー」「便座除菌クリーナ」登場！

▲フィルムにカメラがついた　富士写真フイルムは7月1日、フジカラー「写ルンです」を発売、これまでのカメラとは根本的に違う〝レンズつきフィルム〟を衝撃的にデビューさせた。購入したその場でシャッターを押すことができる、手間いらずの撮影装置で、撮影後は現像所にそのまま出しておけばよかった。24枚撮り、1本1380円と価格も手頃で、気軽にきれいな写真が撮れるという評判から、年内10万本発売の予定が、100万本も売れてしまい、伝説的ヒット商品となった。

▲朝シャン派にかっこうの洗面台　入浴時以外に洗髪する女性の要望にこたえて発売されたのが、TOTOの本格的シャンプードレッサー「クリアシリーズ」だ。洗髪以外に、洗濯、化粧にも使い勝手のよい各種機能を備えた、画期的な洗面台で〝洗い上手なおしゃれステーション〟をキャッチフレーズにしていた。価格は16万2000円。

▼のびのび育てるための玩具が売れた　都市化と核家族化が進む中で、育児に悩む若いお母さんが続出。そのお母さんたちを対象にして評判になったのが、ピープルの「いたずら1歳　やりたい放題」だった。6面体のプラスチックに、ティッシュあり、電話あり、コンセントあり、ドアチャイムありと、赤ちゃんが手を出したがるものをそろえて、2980円。ロングセラーになった。

▲家庭でパンが作れるようになった　船井電機が発売した家庭用オートベーカリー、愛称「らくらくパンだ」が3万9800円で発売され、人気を呼んだ。自分で納得のいく材料をそろえてオリジナルのパンを焼くこともできた。温度をコントロールする温度センサーつきで、システムも焼きムラができない円筒形の内釜など、一般向け装置になっており、フタが透明なので、パンが焼けていく過程を見て楽しむこともできた。

▼消しゴムにも電動化の波がきた　紙をごしごしこすって鉛筆の跡を消すのが、消しゴムの基本的イメージだったが、大正8年創業という消しゴムの名門ヒノデワシはこの年、電動消しゴム「デンケシ」を1箱(12本入り)600円で発売した。文字の上で軽く動かすと、先端の消しゴムが回転して、みごとに消してくれるというものだった。

▲清潔志向が便座にまでおよんだ　若い女性を中心に強くなった清潔志向は〝抗菌〟をキーワードとするようになり、洋式トイレの便座にまでおよんだ。そのニーズをとらえて発売されたのが、小林製薬の「便座除菌クリーナ」だった。ティッシュタイプで携帯に便利、使用後はそのままトイレに流せばよかった。10枚入り220円。

▼オーディオ装置がさらに進化　レーザーディスク(LD)とコンパクトディスク(CD)のハードが1台になった、本格的コンパチブルプレーヤー「CLD-7」がパイオニアから発売された。従来品より7割がたコンパクトになり、画質などの性能もアップ、価格も3分の2程度の15万8000円となって、普及の度を早めることになった。

人物クローズアップ

衣笠祥雄（三九）

「連続出場」を更新中の〝鉄人〟世界記録まであと四五試合！

昭和六一年一〇月二七日、三勝三敗一引き分けで迎えたプロ野球日本シリーズは、西武ライオンズが広島東洋カープを三対二で破り、三度目の日本一に輝いたが、おしくも敗れた広島カープの中心選手・衣笠祥雄三塁手（三九）はこの年も、みずからの連続出場日本一の記録を更新し続けていた。ペナントレース終了時点での衣笠の記録は、二〇八五試合連続出場という驚異的なものになっており、米大リーグのルー・ゲーリッグが持つ世界記録二一三〇試合に、あと四五試合と迫ったのである。

六年前の昭和五五年八月四日、衣笠は飯田徳治（南海から国鉄）の持つ一二四六試合の記録を破る一二四七試合の連続出場を達成、三三歳で日本一の記録保持者となった。その後も記録を更新し続けたが、しかし、衣笠の偉大さは、たんに記録の更新だけにとどまらないところにあった。日本一の記録達成から四年後の五九年、衣笠は打率三割二分九厘と初の三割を達成、さらに一〇二打点をあげて初の打点王に輝くなど、常にランキングの上位に位置し続けていたのである。

しかし、こうした〝鉄人〟と言われた衣笠にも、この年に入って衰えが見え始めていた。この年の通算打率は二割五厘。連続出場記録は、自分の肉体との闘いの中で達成されていったのである。

衣笠祥雄は、昭和二二年一月一八日、京都市東山区生まれ。三七年、名門・平安高校に入学。強肩、強打、俊足の捕手として注目された。捕手と言えば、たいがい鈍足の選手が多かった。そうした中、俊足捕手の出現は驚きであり、豪快な打撃は目をみはらせるものがあった。四〇年、広島カープに入団後、捕手から内野手に転向し、四三年、レギュラーの地位を獲得した。

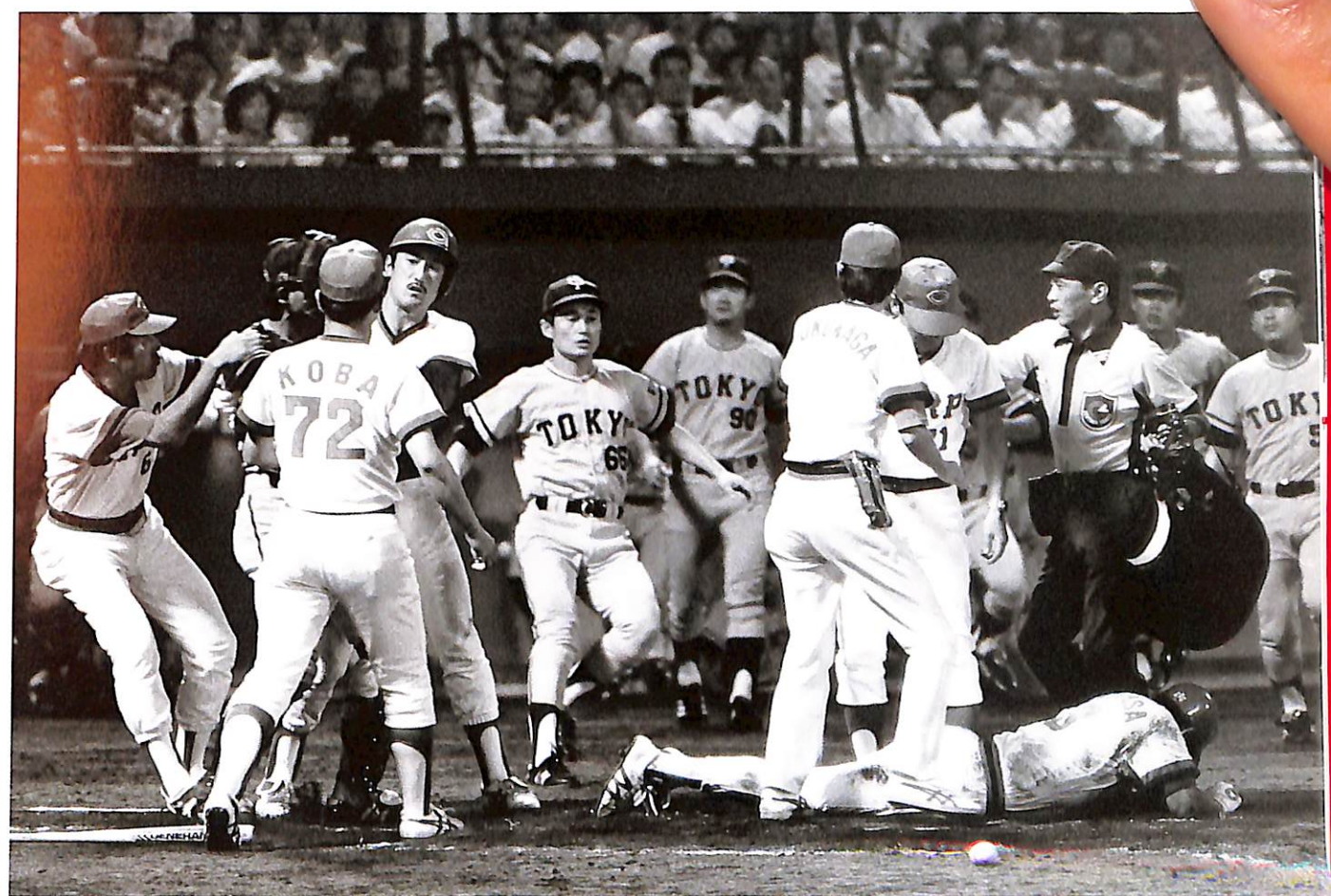
連続出場の始まりは、四五年一〇月一九日の対巨人戦からだった。

衣笠の動きはダイナミックである。バッティングは常にフルスイング。だから三振も多い。しかし、それは気にしない。怪我がなかったわけではなく、骨折は三度経験した。通算一六一個のデッドボールを受けたが、衣笠の態度は、常に何もなかったようにさわやかだった。

「デッドボールになれば一塁に歩くというルールがありますから、わざとぶつけられない限り、そのルールに従っただけです。翌日痛みが残っても、数秒、我慢すればいいんですから。それよりも、監督がメンバー表に自分の名前を入れてくれる方が大事でした」

衣笠はこう語る。

翌昭和六二年六月一三日、衣笠は対中日ドラゴンズ戦で二一三一試合連続出場を達成。世界一の記録保持者となり、国民栄誉賞を受賞する。同年一〇月のシーズン終了まで現役を続けた衣笠は通算二二一五試合一七年連続出場を記録、この年限りで引退した。衣笠の通算打撃成績は、安打二五四三本、本塁打五〇四本である。

◀この年六月七日、阪神―広島八回戦で二〇〇〇試合連続出場記録を達成した衣笠は、ホームグラウンドの広島市民球場で、ファンの祝福を受けた。 中国新聞社提供

▲昭和54年8月1日、衣笠は巨人のピッチャー・西本の死球を背中に受け、左肩甲骨亀裂骨折の重傷を負う。 デイリースポーツ

決定的瞬間

ケン・ミークスの静かな告発 なぜ患者発生以来五年間も エイズは放置されたのか！

◀1986年9月、カリフォルニア州サンフランシスコで撮影されたエイズ患者ケン・ミークス。アメリカ国立防疫センターの調べでは、前年3月18日現在、すでに8853人の患者が発生。そのうち4300人が死亡していた。

アロン・ライニンガー／インペリアル・プレス

写真に写っているケン・ミークスというアメリカ人男性エイズ（AIDS＝後天性免疫不全症候群）患者の腕には、青紫色の紫斑が浮き出ている。紫斑は豆粒大からコイン大まであり、これはエイズ患者特有のカポジ肉腫である。エイズは倦怠感、発汗、急激な体重減少などの症状の後に、カポジ肉腫やカリニ肺炎などの症状が出てくる。一九八六年当時の医療レベルでは、エイズの症状が出てから二年以上生きることはできなかった。同年の世界報道写真賞を受賞したこの一枚の写真は、エイズの悲劇を静かに語りかけている。

エイズ患者の情報が世界で最初に発表されたのは、一九八一年六月に発行されたアメリカ国立防疫センターの「疾病週報」である。カリフォルニア大学ロサンゼルス校の免疫学者マイケル・ゴッドリーブ博士が、男性同性愛者のカリニ肺炎の症状をレポートしたものであった。ところが、その後この患者と同じような症状の同性愛者が多数発見され、エイズは男性同性愛者の中に、まず広がってきた。

当時は「エイズ」という言葉はなく、運びこまれる患者の多くが男性同性愛者であったことから、病気は「ゲイ症候群」「ゲイ癌」などと呼ばれていた。エイズ＝ゲイという関係は、「ゲイという罪深きものたちへの天罰だ」という偏見を生み、エイズ対策の遅れを招いたことは否定できない。

一九八二年七月の米国の患者数は四七一人、八三年には一九二二人、八四年には五〇〇〇人を突破し、ウイルスの感染者は数万人規模に達していると想定された。また一九八五年一月にはサンフランシスコでエイズの街娼が発見され、「歩く時限爆弾」と騒がれた。まさにエイズとの戦いは、時間との戦いであり、早急な予防対策が叫ばれたが米政府の対応は鈍かった。

エイズ予防の活動家は「我々の大統領は、エイズという病気があることを知らないらしい。彼はエイズに使うよりも多くの金を使ってペンキを買い、核ミサイルにアメリカの旗を描いている」と痛烈にレーガン大統領を批判している。

エイズが本格的にマスコミに取り上げられるようになったのは、一九八五年の七月に映画俳優ロック・ハドソン（当時・五九歳）がパリのリッツ・ホテルで倒れたのがきっかけである。異常にやせた彼がパリまで出かけたのは、エイズ患者の間で唯一の治療法と信じられていたHPA－23の投与を受けるためだった。古きよき時代の最後の二枚目俳優がエイズで倒れた、という事実は、エイズとは無縁だと思っていた普通の人々にも大きなショックを与え、その年の一〇月二日に彼が死亡した時には、レーガン大統領は悲しみの声明を発し、米下院本会議はエイズ研究のために一億八九七〇万ドルの緊急支出を可決した。

そして、一九八六年になって政府の公衆衛生総局が報告書を作成し、学校でのエイズ教育、コンドーム使用の促進、エイズ検査のための秘密保持と差別の防止を保障するなど、抜本的な対策が提唱されることになったのである。しかし、エイズ患者が登場してからの五年間にわたる政府の無策は、ケン・ミークスの悲劇とともに「アメリカの恥」として記憶されることとなった。

美の出会い

「一体これは歌舞伎なのか」猿之助が"宙乗り"に挑んだ「ヤマトタケル」連日満員

◀弟橘姫を演じる中村児太郎（現・福助）とともに。児太郎は、兄橘姫も演じて二役をこなした。

昭和六一年二月四日から三月二七日まで、東京の新橋演舞場でスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」が上演された。脚本は哲学者の梅原猛（六〇）、台本の整理と演出・主演は市川猿之助（四六）。この二人の出会いが、前代未聞の舞台を作り出した。また、舞台美術は朝倉摂、衣裳は毛利臣男、音楽は長沢勝俊、そして振り付けが藤間勘紫乃。歌舞伎の上演というよりは、現代劇かオペラ、あるいは宝塚かと見まごうばかりのメンバーが参加した。

物語は『古事記』の英雄ヤマトタケルを主人公に、帝殺害の計画を立てていた兄を殺したことから父の帝にうとまれ、流浪の旅をするヤマトタケルの波瀾万丈の生涯を描いたものである。兄の妃・兄橘姫や弟橘姫とのロマンス、熊襲や蝦夷との戦いなどを通してドラマは展開する。ヤマトタケルに征服される熊襲や蝦夷、征服する側の言い分と、される側の抗議の声や、生きるとはどういうことかを問うシーンなどに、梅原らしい教養文学の味も加味された舞台だった。

猿之助が梅原と出会ったのは、昭和四四年頃のこと。彼は、梅原の日本古代史に挑戦した話題作『隠された十字架』や日本思想史の根源を問う『地獄の思想』に関心を持っていた。ある時、「新歌舞伎を見てもどうも面白くない」という梅原に、猿之助は「作者がいないんですよ。先生ぜひ書いてください」となかば社交辞令で頼んだ。

「そのうちに書くから」と答えた梅原は『古事記』の現代語訳をするうちに、大碓命・小碓命（後のヤマトタケル）兄弟の争いから、流浪の旅の最後にヤマトタケルの魂が白鳥になり、天高く翔ける宙乗りの情景まで構想を広げていった。昭和五五年頃のことである。しばらくして梅原から送られてきた分厚い脚本を読んだ猿之助は、「これはいける」と思い、さっそく松竹に脚本を渡した。こうして昭和五九年になって、演舞場での公演が決まったのである。

歌舞伎の発想を生かしながらも、音楽と舞踊の聴覚美、視覚美にあふれ、現代人の心を打つ舞台をやりたいと考えていた猿之助は、「ヤマトタケル」の脚本を練りに練り、思う存分に構想を深めていった。

"スーパー歌舞伎"という名称は、初演の前年、昭和六〇年の夏にスタッフが軽井沢で打ち合わせをしていた時に決定した。「演舞場の宣伝部からネーミングが欲しいと言われてみんなで考えたのが、スーパー、超カブキです。それからああでもないこうでもないと考えて工夫して初演したのですが、いまふり返るとあんなものがよくできたと思いますね」（『市川猿之助の仕事』演劇出版社刊）と猿之助は回想する。

初演の二月四日から、新橋演舞場の約一四〇〇席は連日満員となった。

「観劇した人たちの間から、歌舞伎とはこんなに面白いものなのか、今までの歌舞伎では見たこともない舞台、衣裳、テンポの早い音楽、一体これは歌舞伎なのかという衝撃と共感が広がっていきました」と演舞場の岩下雅夫氏は語る。

五月には名古屋の中日劇場、六月には京都の南座、一〇月、一一月に再び新橋演舞場で凱旋公演がなされた。

「観客に受け入れられるのだろうか。芝居として成功するのだろうか」という猿之助の不安は、杞憂だった。みごとに成功した猿之助は、さらに自信を得て、以後「リュウオー」「オグリ」「八犬伝」を生み出していく。

この年三月に、市川猿之助は第一三回テアトロ演劇賞を受賞。歌舞伎座公演の「雙生隅田川」、ヨーロッパ公演の「義経千本桜」など、現代における歌舞伎の活性化に尽力した業績に対して贈られたものである。歌舞伎の革新派であったため傍流とみなされた祖父・猿翁に愛され、その革新性を天性のものとして引き継いだ猿之助歌舞伎が、今、世界中の劇壇に新風を吹きこんでいる。

▲「ヤマトタケル」千秋楽のカーテンコール。11月27日、新橋演舞場にて。右から4人目が作者の梅原猛、左手前から二人目が猿之助。

▲ヤマトタケルの魂が、白鳥になって飛んでいくラストシーン。「何か途方もない大きなものを追い求めて、私の心は天高く天翔けていた」 松竹提供（3点とも）

20世紀博物館

日本玩具資料館

東京・台東区

ずらり八〇〇〇点、玩具が輸出の花形だった時代の逸品ぞろい

桑原茂夫

この日本玩具資料館を特徴づけているのは、商品として流通した玩具の歴史を、いろいろな角度から見ることができる点にある。町のおもちゃ屋さんの店頭やデパートの玩具売り場で、子どもたちを刺激してやまなかった玩具が、約五〇〇平方メートルの展示スペースに八〇〇〇点、ずらりと並んでいるのである。

しかも、年代を追って見ることもできれば、自動車や銃、盤面ゲーム、人形などテーマ別に見渡すこともできるように展示されている。

そしてざっと見渡す限り、どの時代も、ゲームやパズルの類をのぞけば、ミニチュア玩具か、あるいはオートマチックな動きが楽しめる玩具が多いということに驚かされる。

人形や乗りもの、武器など、多様なジャンルを持つミニチュア玩具は、現実世界を子どもたちが手にとれる世界に移し換える、魔術的な魅力でいっぱいだし、ゼンマイ仕掛けの各種ロボットなど、オートマチックな動きを見せる玩具は、オートマチックであるという、そのことだけで十分面白い。

ところで、この資料館で玩具に埋まり、メンテナンスやレイアウト、それに資料整理（収蔵点数は一万数千にのぼる）などのあれこれを行っている茂塚茂さんが見せてくれた人形玩具には目をみはらされた（もちろん一般客にも見せてくれる）。

人形といっても、可愛らしいのとは違う。どう見てもフランケンシュタインなのだ。これが、スイッチを入れると踊り出すのである。それだけならどうということはないのだが、一定の時間を経ると（これが絶妙のタイミングなのだが）動きが止まる。さて何が起きるかというと、フランケンシュタイン氏のズボンがずり落ち、パンツ丸見えのあられもない姿になってしまうのである。

そして、次の瞬間、なんと！　その顔がポッと赤らむのであった。そこで初めて、顔の中に電球が仕込まれてあったのを知るというわけだ。

昭和三〇年代の玩具だという。こんな玩具が店頭にあれば、子どもたちが見逃すはずはない。一体どこにあったのか、という大きな疑問が生ずるところだが、実は、これは輸出用に作られた玩具だったのである。もはや手に入れることのむずかしいこの手の輸出用玩具が、この資料館には数多くある。

そもそもこの玩具資料館は、玩具問屋であるツクダの創業者・佃光男氏が、玩具の散逸をおそれて、いろいろなメーカーに呼びかけ、収集・保存することにしたのがきっかけで、昭和五六年に開設された博物館。輸出用玩具については、メーカーから日本輸出玩具登録協会というところに提出されるサンプルで、用済みのものが当の協会から、資料館に寄せられていたのである。見たこともない逸品がそろっているのは、そういうわけだったのだ。玩具が輸出の花形だったことを、納得させてくれる優れたものが並ぶ、ここはまさに日本玩具の宝庫なのだった。

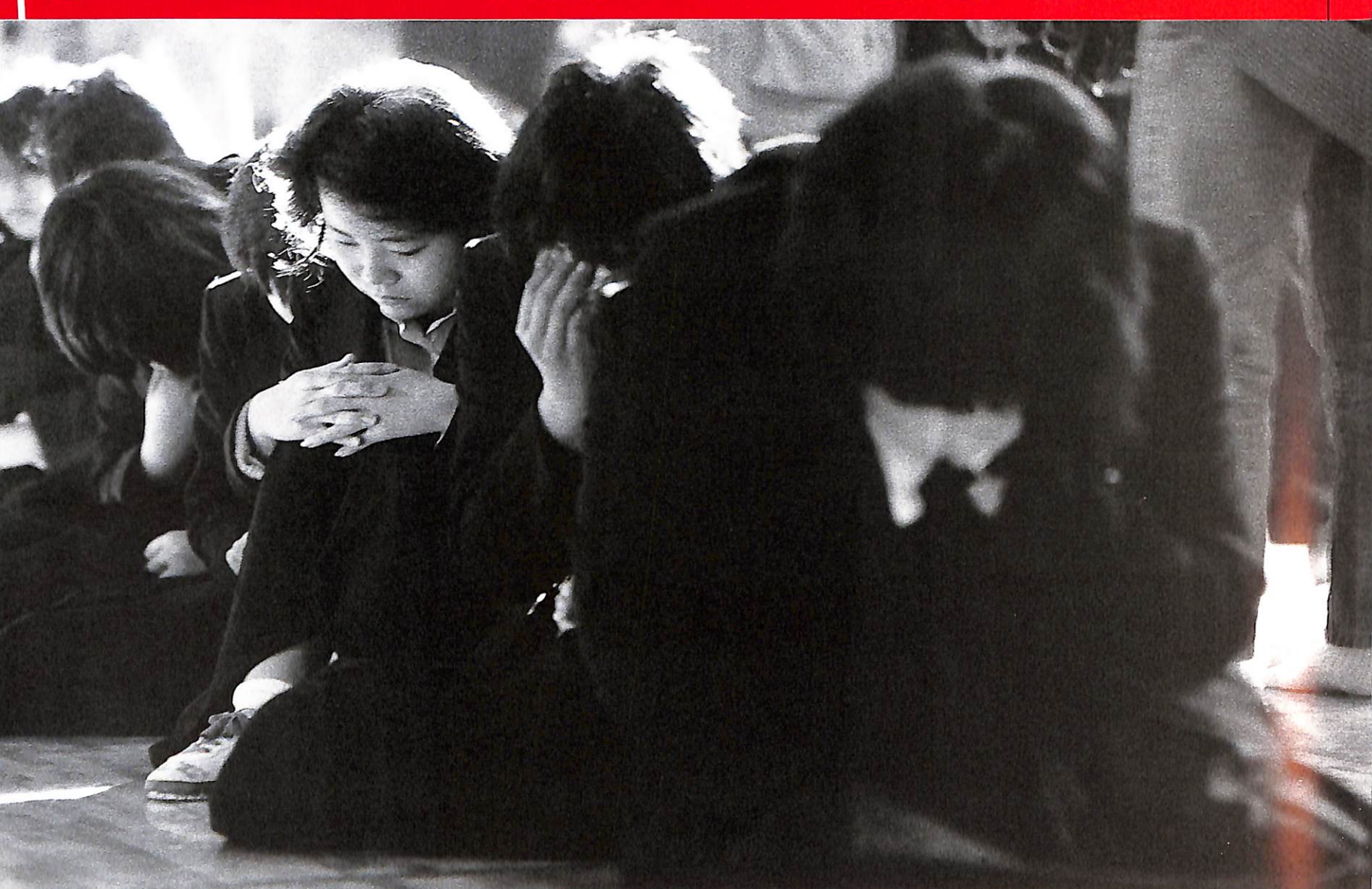
▲整然と並んだ各種玩具。右手前に、飛行機やロボットのコーナーが見える。　奥村健太郎

▲資料の整理などに大忙しの茂塚さん。昭和50年代の輸出玩具がお気に入り。

▲輸出玩具の傑作。フランケンシュタイン氏が、恥ずかしいかっこうに顔を赤らめるシーン。

▲年代別に玩具の流行や傾向を見ることができるコーナー。木製から金属製へ、さらにプラスチック製全盛時代へと移っていく様子がわかる。

●日本玩具資料館
東京都台東区橋場一—三六—一〇
☎〇三—三八七四—五一三三
地下鉄浅草駅下車、徒歩二〇分。バス清川一丁目下車、徒歩五分
開館時間＝九時半〜一七時
休館日＝月、火、第三水曜日、年末年始
入館料＝一般二〇〇円

「このままじゃ『生きジゴク』になっちゃうよ」
鹿川裕史君（13）を自殺にまで追いつめた
「いじめ」の卑劣！

▲2月3日、全校集会で鹿川君の死を知らされ、うつむいて涙を流す女生徒たち。　朝日新聞社

学校での「いじめ」から「このままじゃ『生きジゴク』」と悲痛な遺書を残して自殺した鹿川裕史君の事件は、社会的大問題に発展、学校側の管理責任を問うなどの議論が百出した。しかし、「いじめ」に対する解決策が引き出せないまま、子どもたちの自殺は相次ぎ、精神障害や不登校などの異常事態が、今も全国規模で噴出し続けている。

「使い走り」「ふざけ」そして「葬式ごっこ」

昭和六一年二月一日、岩手県盛岡市の国鉄（現・JR）盛岡駅に隣接するデパート「フェザン」の地下一階男子トイレで、東京都中野区立中野富士見中学校の二年生、鹿川裕史君（一三）が自殺した。

▲自殺した鹿川裕史君。　共同通信社

▶クラスメイトと教師による「葬式ごっこ」に登場した"追悼"色紙。　共同通信社

毎日新聞社

▲「アホンだらあ」といたずら書きされた佐藤君の教科書。

見まわりのガードマンが死体を発見したのは午後一〇時すぎ、鹿川君はビニール紐をトイレ内側の洋服掛けにかけ、首を吊り、床には遺書が残されていた。

「突然姿を消して申し訳ありません。俺だってまだ死にたくない。だけど、このままじゃ『生きジゴク』になっちゃうよ」

鹿川君の身に変化が生じたのは、前年四月、中学校二年に進級した後のこと五、六月頃、クラスの中につっぱりグループが自然に形成されると、鹿川君は「使い走り」をさせられるようになっていた。

▲前年9月に自殺した佐藤清二君の祖母・ナカさん(78)は、「何度も学校に相談したけど、取りあってくれなかった」と悔やみきれない様子で語る。 毎日新聞社

▲1月、大阪市北区に子どもの「かけこみ寺」として、「余里径（よりみち）倶楽部」が開設された。 岡村啓嗣

一〇月頃になると、「ふざけ」が急速にエスカレートしていく。顔にマジックを塗られる。廊下で踊らされる。服にマヨネーズをかけられる……。度がすぎる時は、級友が止めに入ったが、当の本人はさして苦にもしていない様子であった。

「家に帰るのが怖い」ともらし始めたのもその頃、「いじめ」に遭っていることを告げると、厳格な父親は、鹿川君を叱る一方、抗議のため、いじめた子どもの家庭に乗りこむこともあった。

そして一一月一四日と一五日には、信じられないような事件が起こった。クラスメイトや教師までも加わった「葬式ごっこ」が行われたのである。黒板の前におかれた鹿川君の机の上には、飴玉や夏ミカンが並べられ、花や線香も添えられていた。鹿川君の写真の横には色紙がおかれ、そこには級友の寄せ書きや「やすらかに」といった担任を含む四人もの教師のメッセージや署名もあった。

六一年に入って、一月八日の始業式の日、一〇人ほどのグループにひざ蹴りやパンチなどの暴行を加えられた鹿川君は、その後欠席を繰り返すようになっていた。

一月三〇日までに彼が登校したのは一三日間だけ、それもすべての授業に出ていたわけではなかった。そして三〇日は最後の登校日となった。その夜、鹿川君は家でごはんを食べ、コタツにくるまりながらテレビを見ていた。変わった様子もなく、冗談も出るほどだったという。

そして翌二月一日朝、鹿川君はいつもどおり家を出る。母親が、マフラーを巻いた子どもの姿を見たのは、それが最後であった。

「だから、もう君たちもバカなことをするのはやめてくれ。最後のお願いだ」

遺書はこうしめくくられていた。

日本の社会特有の〝異質排除〟の風潮

「いじめ」は、すでに全国に蔓延していた。昭和六〇年九月二六日、福島県いわき市小川町の山間にある農機具小屋の中から、ビニールホースで首を吊った市立小川中学の三年生、佐藤清二君（一四）の変わりはてた姿が発見された。

カバンの中からは「一万五〇〇〇円とバイク一台を明日までもってこい。もってこなければ殴るぞ」と書かれた脅迫状が見つかった。

そして自宅の勉強机の上には、一冊の真新しいノートがおかれ、そこには「九月二三日 曇。午前中ばあちゃんの畠仕事手伝い。午後から友だちとトランプ。楽しかったなあ」と記されていた。

同年一〇月二〇日には、東京都大田区立羽田中学二年生の亀田千春さん（一三）が自宅マンション一〇階のベランダから飛び降り自殺。千春さんは数人の女生徒から「舎弟」にさせられ、「むかつく」「チクったら（言いつけたら）ただではすまない」と脅かされ続け、遺書には「私は、もう生きてゆけません。もう学校にいくのがつらいのです。もう生きていてもいやな毎日ばかりで、たえきれません。——。私が犠牲になっていじめをやめさせる」と書かれてあった。

鹿川君が自殺した後も、「いじめ」の相談窓口「いのちの電話」への訴えは後を絶たない。

「トイレに閉じこめられた」「パンツをみんなの前で脱がされた」「先生に話すとリンチを受ける」「弁当にカミソリを入れられた」——。

文部省のまとめによると、「弱いものに対する身体的・心理的攻撃」を加える「いじめ」はいまだ衰えを見せていない。平成八年度で公立学校（小・中・高・特殊学校など）は三万九八四九校、そのうち実に三四・四％にあたる一万三六九三校で「いじめ」が発生しているのである。

昭和六一年三月の法務省人権擁護局の調べによると、いじめた側は、①力が弱い、動作が遅い、②なまいき、良い子ぶる、③仲間に入らない、④肉体的欠陥、⑤人より優れている、⑥転校生——を理由に「いじめ」を行っている。

「いじめ」の根底には何があるのか。

「『いじめ』は世界中で起きていますが、日本の場合、その一番大きな原因は、異質なものを認めないという精神文化に根ざしていると思います。偏差値教育や核家族化によって孤独を強いられた子どもたちは、必死に自分の居場所を求めるのですが、性格や能力が集団と調和しない子は、集団から排除されてしまう。つまり村意識が働いて、村八分にされてしまうのです」

こう語るのは社会福祉法人「いのちの電話」事務局長の斎藤友紀雄氏である。

「いじめ」は子どもの世界だけに特有な現象ではない。むしろ企業や組織といったおとな社会が持つ〝異質排除〟の風潮が、そこに反映されているのである。

「いじめ」に関する全国調査

いじめの態様

小学校

態様	割合
冷やかし・からかい	25.2%
仲間はずれ	21.5%
言葉での脅し	15.6%
暴力	15.2%
持ち物を隠す	10.5%
その他	

中学校

態様	割合
冷やかし・からかい	22.1%
暴力	21.2%
言葉での脅し	20.2%
仲間はずれ	13.9%
持ち物を隠す	7.1%
その他	

高等学校

態様	割合
暴力	30.7%
言葉での脅し	20.1%
冷やかし・からかい	19.5%
たかり	10.7%
仲間はずれ	5.8%
その他	

（昭和62年の値）

▶学校での「いじめ」は、暴行、言葉によるもの、無視や仲間はずれ、金品の強要、持ち物を隠す、性的いやがらせなどが中心。

7~8月
フォト＋日録で再現する365日

大野和基／ユニフォト・プレス

▲「自由の女神」100年祭（7月3日）贈り主のフランス国民を代表し、ミッテラン大統領も参加、華やかな式典を挙行。写真は翌日、日本など14ヵ国55隻の艦船や帆船が祝福。

▶濃霧の瀬戸内海でフェリーとタンカー二重衝突（7月14日）修学旅行の高校生らを乗せ航行中のフェリーが、タンカーの右舷に激突（写真）、さらに後続のタンカーがフェリーに追突した。衝撃で引火物が流出したが、大事にはいたらなかった。

朝日新聞社

▶米空軍の「見えない戦闘機」ステルス墜落（7月11日）レーダー波を吸収・拡散する極秘機で、カリフォルニア州中部で試験飛行中だった。一人死亡。厳しい箝口令が敷かれた。

ロイター／サンテレフォト

◀鹿児島市各所で崖崩れ（7月10日）集中豪雨が、水に弱いシラス台地を急襲、死者18人、負傷者16人。最新の宅地造成技術ももろかった。写真は泥流につぶされた平之町の民家。

読売新聞社

▶初のナイター競馬始まる（7月31日）東京の大井競馬場が、人気挽回のため勤め帰りのファンをねらって企画。名前もお洒落に「トゥインクルレース」。都会の納涼名物として、人気を博した。

時事通信社

◀浜田剛史、世界王座奪う（7月24日）WBC世界J・ウェルター級選手権で1回、強烈なショートを連打、王者アルレドンド（メキシコ）をマットに沈めた。浜田は25歳。この級の王者は、藤猛以来19年ぶりだった。

共同通信社

昭和61年7月

1（火）●日本国際通信企画、設立。KDDの独占に幕。
●富士写真フィルム、レンズつきフィルム「写ルンです」発売。一三八〇円。完売店続出。
2（水）●拓殖大、リンチ事件の空手部を廃部と決定。
●労働者派遣事業法施行。人材派遣会社を認知。
3（木）●第二次大戦下に起きた横浜事件の元被告、横浜地裁に再審を請求（刑確定後四一年ぶり）。
4（金）●京セラ、アレキサンドライト・キャッツアイと同構造の人工宝石の工業化に成功と発表。
5（土）●五〇cc以下のバイクのヘルメット着用義務化。
6（日）●衆参同日選。自民圧勝三〇四議席、社会惨敗。
●平和相銀乱脈融資で前社長ら七人を逮捕。
7（月）●四大婦人誌のひとつ「婦人生活」廃刊と新聞に。
8（火）●外国人の犯罪検挙者は前年の一〇倍と警視庁。
9（水）●大分県の養護教諭グループによる調査で高校生の一割以上が起立失調やうつ状態と新聞に。
10（木）●鹿児島に集中豪雨。二二戸倒壊、一八人死亡。
11（金）●横浜市で無抵抗の老人襲撃繰り返す少年逮捕。
12（土）●第一回世界マスターズ水泳選手権大会、開催。
13（日）●ピアニスト、ブーニンが日本で初演奏会開催。
14（月）●最高裁、単身赴任拒否訴訟で、単身赴任のもたらす苦痛は甘受すべき程度と新判断。
15（火）●東京の玉川上水が二〇年ぶり復活し試験通水。
16（水）●兵庫県、長年放置のPCB廃棄物処理を開始。
17（木）●原水協、原水禁世界大会の独自開催を決定。
18（金）●経済同友会、外国人一〇人を特別会員と決定。
19（土）●政府、韓国の反対運動激化で皇太子訪韓延期。
20（日）●開業医の月収は会社員の七倍と中医協調査。
21（月）●教育課程審、体育に武道復活などを決定。
22（火）●第三次中曽根内閣発足。副総理に金丸信。
23（水）●北尾、六〇代横綱に昇進（双羽黒と改名）。
●東京・銀座で女子高生に流行の「マル文字」作品展開催。応募二三〇〇点。
24（木）●浜田剛史、世界J・ウェルター級の王者に。
25（金）●TBS、ドラマ「男女七人夏物語」放映開始。
26（土）●総合文化施設「札幌芸術の森」が開所。
27（日）●銀行・信販・サラ金など消費者ローン関係業界が、滞納者リスト交換を始めると新聞に。
28（月）●円高で正規の三分の一になった日米間一五万円の輸入航空券が出まわる、と新聞に。
29（火）●香川県国分寺町にシャワー隕石が落下。
30（水）●東北自動車道の浦和－青森間、全通。
31（木）●東京・大井競馬場で日本初のナイター競馬。
●日米半導体交渉合意。日本市場への参入拡大。

読売新聞社

▲浩宮（26）、南アルプス縦走（8月10日）13日まで3泊4日の登山を行い、静岡県の3000メートル級高山、荒川三山と赤石岳を征覇、「日本百名山」挑戦の夢を、またひとつはたした。

共同通信社

▲NTT独占に幕（8月1日）通信自由化にともない、国鉄系の日本テレコムが開業。新幹線ぞいに光ファイバーケーブルを敷設して東京―大阪間でサービス開始。料金はNTTより最高で2割安かった。写真は、開通式のテープカット。

読売新聞社

▲日航ジャンボ機墜落1周年（8月12日）群馬県上野村に建立された「昇魂之碑」の前で、3日慰霊祭が執行された。さらにこの日、遺族約120人が険しい尾根の現場に向けて登山、無念の犠牲者520人の霊を慰めた。

◀宇宙開発事業団、H1ロケット打ち上げ（8月13日）2個の衛星を円軌道に乗せた。液体水素エンジンと慣性誘導装置など国産化率8割を達成し、日本もロケット先進国になった。

共同通信社

ロイター／サンテレフォト

◀カメルーンで毒ガス発生（8月22日）北西部のニオス湖周辺の住民1746人が死亡。火山活動で、二酸化炭素や硫化水素が火口湖上に噴出、即死したと推定された。写真は26日撮影の牛の死体。

▶北方墓参団、11年ぶり再開（8月21日）5月の日ソ外相会議でやっと実現。旧島民ら52人が北大練習船「北星丸」で根室港を出発、先祖の墓のある色丹島や水晶島をまわった。

平野禎邦

昭和61年8月

1（金）●日本テレコム、営業開始（10月24日第二電電も営業開始、NTT独占に幕）。
●新石垣空港建設反対派、土地共有運動を開始。
2（土）●東京・練馬区の環状七号線でオートマ車暴走。六台に衝突し三人死亡、六人重軽傷。
3（日）●群馬県上野村で日航機事故一周忌慰霊祭挙行。
4（月）●KDD、平均一三％の料金値下げを申請。
5（火）●大検始まる。前年比三割増の一万余人受験。
6（水）●人工心臓で最長生存記録更新中の米のウィリアム・シュレーダーが死去。六二〇日目。
7（木）●著作権審議会、カラオケに最高月額一万円の使用料徴収を、と文化庁長官に答申。
8（金）●中央本線上諏訪駅構内に温泉露天風呂開設。
9（土）●長崎原爆忌。本島市長が非核三原則厳守訴え。
10（日）●国民医療費抑制で伸び率は過去最低と厚生省。
11（月）●大学進学率は低下し三四・七％と文部省発表。
12（火）●国内初のプロサッカー選手として、元西独リーグの奥寺康彦と日産の木村和司を登録。
13（水）●種子島で、初の国産液体水素エンジンと、慣性誘導装置搭載のH1ロケット打ち上げ。
14（木）●前年の対米輸出は日本が一位と米商務省発表。
15（金）●新自由クラブ解党。田川誠一のぞき自民党へ。
16（土）●東農大登山隊、崑崙山脈最高峰の登頂に成功。
17（日）●国公立大の六割が入試で「足切り」と文部省。
18（月）●筑波学園都市に「免震ビル」一号完成し公開。
●国際競争力番付で日本が米・スイス抜き一位。
19（火）●大日本インキ、米サン・ケミカル社の印刷インキ・顔料部門を八五〇億円で買収と発表。
20（水）●円続騰、一ドル＝一五二円五五銭を記録。
21（木）●北方領土墓参団、一一年ぶり再開され出発。
22（金）●日産と三菱、人気加速の4WD車を発売。
●カメルーンのニオス湖で有毒ガスが噴出。一七四六人が死亡。
23（土）●蜷川幸雄演出「王女メディア」、英で上演。
24（日）●米戦艦「ニュージャージー」などトマホーク搭載の三艦艇、佐世保・横須賀・呉に分散入港。
25（月）●都内河川の六四％が環境基準に適合と都発表。
26（火）●ボストン美術館で発見された葛飾北斎の版木五二〇枚から浮世絵が製作されると新聞に。
27（水）●釧路地裁、梅田事件（昭和25年）再審で無罪。
28（木）●日米武器技術委員会で米は補給艦技術を要請。
29（金）●厚生省、痴呆性老人対策本部を設置。
30（土）●動燃、北海道幌延町で放射性廃棄物施設調査。
31（日）●黒海で客船が貨物船と衝突し三九八人死亡。

▶**異常人気の国鉄時刻表（9月）**翌年4月に分割・民営化されるため、日本交通公社発行の「11月号」は最後の改正掲載号。発売前から鉄道ファンの注目を集め、東京・銀座の書店では「注文の殺到が予想されます」と貼紙を出した。

読売新聞社

◀**ディスコ「マハラジャ」人気（9月）**服装チェックを行い、選ばれた人だけが入店を許された。これがかえってお洒落な「都市遊民」に受け、東京・麻布の店前にはいつも長い行列ができた。

渡部純一

▶**最後の鉄道郵便（9月26日）**ＪＲ移行による合理化のため、全面的にトラックと航空機による輸送に切り換え。明治5年（1872）の新橋―横浜間の開通と同時に始まった歴史に、幕が降ろされた。写真は、東京発門司行き最終列車を見送る職員たち。

読売新聞社

▶**西武・清原和博、高校卒新人タイ（9月16日）**対南海戦で27号を打ち、西鉄・豊田泰光の記録に33年ぶりに並んだ。清原（19）はこの年31本塁打、新人王を獲得した。

朝日新聞社

▶**皇居・石橋の装飾灯6基取り替え（9月2日）**二重橋の手前にあり、外国の賓客や一般参賀の時、最初に渡る橋に取り付けられていた。老朽化したため99年ぶりの作業。石橋は明治20年（1887）12月に石造りに改築されたもの。

共同通信社

◀**「軍民共用」の千歳空港に防弾堤（9月11日）**茨城・百里基地で自衛隊機のミサイルが暴発したため、万一の備えに急遽建設。高さ2.5、長さ50メートルの鋼鉄板と土嚢製（写真中央）。

読売新聞社

昭和61年9月

1（月）●中野浩一、世界自転車選手権で一〇連覇達成。
2（火）●労使協調の動力車労組、総評脱退を通告。
3（水）●光市に「周防猿まわしの会」の小劇場が完成。
4（木）●航空自衛隊百里基地で空対空ミサイルが暴発。
5（金）●藤尾正行文相、雑誌で「日韓併合は韓国にも責任」と発言したことが判明（8日文相罷免）。
●海老名市でシンナー中毒死の男女六人発見。
6（土）●土井たか子、社会党委員長に当選（8日就任）。
7（日）●三重県のナガシマスパーランドでジェットコースターが先行車両に追突。四二人負傷。
8（月）●日産、英で本格的自動車生産を開始。
9（火）●閣議、米のSDI研究参加を正式決定。
10（水）●韓国済州島で保険金殺人未遂の日本人逮捕。
11（木）●松下電工、四三ブラウン管を開発と発表。
●ポーランド政府、全政治犯の釈放を発表。
12（金）●日教組、左右対立で定期大会の無期延期決定。
13（土）●シンセサイザーの冨田勲が、ニューヨークで一〇万人の野外コンサートを開催。
14（日）●ソウルの金浦空港で爆弾事件。五人死亡。
15（月）●鳩ケ谷市で痴呆症の母親をかかえる女性が同問題を扱ったテレビを見て悲観、母親を絞殺。
16（火）●福岡市でダイオキシンに関する国際シンポ。
17（水）●三洋電機、世界初の太陽電池自動車を実用化。
18（木）●名古屋市、モディリアーニの「おさげ髪の少女」を三億五〇〇〇万円で購入と発表。
19（金）●マル優悪用の脱税預金は一二兆円と国税庁。
20（土）●ソウルでアジア大会開幕。北朝鮮ボイコット。
●ガット、ウルグアイ・ラウンド開始宣言。
21（日）●知床で国有林伐採反対の記念植樹祭開催。
●本田技研、F1で初の総合優勝。
22（月）●中曽根首相、「黒人らのため米の知的水準は低い」と暴言（25日米下院に非難決議案提出）。
●安中公害訴訟、東京高裁で一四年ぶり和解。
23（火）●いたずらへの逆襲機能つき電話人気と新聞に。
24（水）●国鉄民営化反対のゲリラで国電が終日混乱。
25（木）●日本自然保護協会、南西諸島の珊瑚礁保護に「ニライカナイ・ユー　サンゴ基金」設立。
26（金）●東京高裁、連合赤軍事件の永田洋子らに死刑。
27（土）●初の七ヵ国蔵相会議（G7）開催。
●西武の清原和博、高卒新人最多本塁打を記録。
28（日）●水戸市で国労組合員自殺。この年三六人目。
29（月）●年金融資に二世代型住宅ローン創設と厚生省。
30（火）●郵政省、郵便の鉄道輸送を全廃。
●室伏重信、アジア大会ハンマー投げで五連覇。

証言・あの日この日
江崎玲於奈（61）

12月26日（金）〈今や日本のさまざまの企業がニューヨークの中心街に進出し、日本人主催のパーティー、あるいは日本文化に関する催しも盛んである。すし屋をはじめ日本料理店も結構繁盛している。新聞記事、とくに経済欄などには、日本企業に関するものがよくあらわれる〉（江崎玲於奈「ニューヨークから」）

敗戦の廃墟から出発した日本は、いつの間にか、アメリカと肩を並べる経済大国、ハイテク先進国にのし上がっていた。日本や日本人への評価も高まる。当然アメリカ社会で日本人の影響力も増大。しかし、一方ではそれが日米貿易摩擦に発展。「21世紀は日本の世紀」と言う人もいるが、日本人ははたしてその役割を演じられるのだろうか。ノーベル賞を受賞したアメリカ在住の物理学者・江崎玲於奈はそれを心配する。（山崎行太郎）

▶**広島・山本浩二が引退（10月27日）**西武に逆転優勝された日本シリーズ後、18年の選手生活にピリオド。ナインの胴上げ後「ミスター赤ヘル」が泣いた。40歳。通算本塁打536本は田淵、長嶋を抜き大学卒選手の最多記録。

朝日新聞社

▼**森進一・森昌子が結婚（10月1日）**演歌の人気歌手同士が東京の高輪プリンスホテルで挙式、総費用3億円と言われた豪華な披露宴を催した。引退する花嫁（27）は初婚。森進一（38）は女優・大原麗子と離婚後の再婚だった。

読売新聞社

▼**「10万円金貨」に行列（10月16日）**天皇在位60年記念硬貨の引き換え抽選券を、全国の金融機関や郵便局で受け付け。1万円の銀貨もあり、それぞれ1000万枚発行で抽選券は5000万枚分。写真は埼玉県坂戸市で。

読売新聞社

◀**パンダの赤ちゃんは5.5キロ（10月14日）**生後136日目になり、東京・上野動物園では「やや小さいが食欲も運動量も順調」とコメント。母親のホアンホアンが朝食を食べている際に体重測定。

読売新聞社

▼**「島流し」人活センター（10月）**余剰人員処理のため、国鉄が7月5日から国労組合員らを次々配転。写真は20日東京運転区で。元機関士らの仕事は、車内灯磨きだった。

連合通信社

昭和61年10月

1（水）●住友銀行、乱脈融資の平和相銀を吸収合併。
●東京湾横断道路㈱設立。東京湾架橋をめざす。
2（木）●関東北西部で杉枯れが蔓延し重症と判明。
3（金）●米製タバコの関税撤廃で日米が合意。
4（土）●南極海の鯨に重金属蓄積と水産学会で報告。
5（日）●「最後の鷹匠」秋田県の竹田宇市郎、廃業。
6（月）●農水省、農産物の内外価格差を発表。牛肉は米国の三・三倍、米は八・四倍など。
7（火）●東北大、地下岩盤の人工亀裂実験に成功。マグマ熱を発電に利するため。
8（水）●本田技研、四輪操舵（4WS）システム開発。
9（木）●神戸地裁、水道水の高濃度フッ素が原因で斑状歯になったとの訴え認め西宮市に賠償命令。
10（金）●エルサルバドルで大地震、一二〇〇人死亡。
11（土）●レーガンとゴルバチョフが戦略兵器削減のため緊急会談。SDI問題で決裂（～12日）。
12（日）●「アークヒルズ」にサントリーホール開場。
13（月）●初の『生産性白書』。賃金から時短に重心。
14（火）●円高差益一〇兆円、還元は四兆円と経企庁。
15（水）●日本野鳥の会、釧路湿原に丹頂鶴のサンクチュアリ建設のため用地買収契約を締結。
●ソ連、アフガニスタンからの部分撤退を開始。
16（木）●安保理非常任理事国選挙で日本は最下位当選。
●天皇在位六〇年記念金貨・銀貨の抽選券配布。
17（金）●指紋押捺拒否者は一三七一人と法務省集計。
18（土）●選挙予測報道は投票に影響せずと東大新聞研。
19（日）●児玉泰介、北京マラソンで世界歴代三位記録。
20（月）●WWF、沖縄本島での自然林伐採禁止を要請。
21（火）●ビデオソフトの売り上げが二〇〇〇億円を超え、映画産業を上回ると産業構造審議会報告。
22（水）●自民党訪米団、米の輸入自由化拒否を声明。
23（木）●「禁煙」から場所限定の「分煙」が浸透と新聞に。
24（金）●華厳の滝で滝口付近の岩盤崩落。景観が一変。
25（土）●建設省、道路標識にローマ字併記と決定。
●雫石事故で失職の元自衛官激励会に、全国から一八人が訓練といつわり自衛隊機で参加。
26（日）●タイ航空機内で手榴弾爆発、大阪に緊急着陸。
27（月）●北海道で初の日米共同統合実動演習実施。
28（火）●農水省、米の転作を全水田の四分の一に拡大。
29（水）●大蔵省、NTT株式の一般売り出し価格を一株一一九万七〇〇〇円と決定。
30（木）●中央公害対策審、全国四一ヵ所の大気汚染指定地域の全面解除など公害補償の縮小を答申。
31（金）●国鉄、手荷物取扱い（チッキ）を廃止。

11~12月

AP/WWP

▲**タイソン、新王者(11月22日)** WBC世界ヘビー級戦でカナダのバービックを2回、強烈なフック(写真)で、TKO。このクラス史上最年少、20歳でチャンピオンとなった。

共同通信社

▲**長崎の三菱高島礦閉山(11月27日)** 翌年からの国内炭撤退を打ち出した、石炭鉱業審の結論を前にした閉山。鉱員ら956人全員が解雇された。高島礦は明治時代創業で、105年の歴史を持つ日本最古のヤマだった。

毎日新聞社

▶**和歌山市で集団自決(11月1日)** 浜の宮海岸で真理の友教会の女性信者7人が、灯油をかぶり焼身自殺。前日に男性教祖が病死し、「後を追う」との遺書があった。8人は、約10年前から共同生活していた。写真は自殺現場。

共同通信社

◀**三井物産マニラ支店長誘拐(11月15日)** 郊外のゴルフ場付近で若王子信行支店長(53)が、武装した5人組に連れ去られた。翌年、新聞に監禁中の姿が発表され(写真)、3月には解放されたが、交渉経過は公表されず、犯人も捕まらなかった。

ロイター/サンテレフォト

▲**「補給作戦はCIAと連携」(11月15日)** ニカラグアのサンディニスタ左翼政権転覆をはかるゲリラ、コントラに補給物資を空輸中、撃墜され捕まった米兵(右)が表明。1990年に親米政権が成立するまで、CIAの暗躍は続いた。

▶**3億3300万円強奪(11月25日)** 東京・千代田区の三菱銀行有楽町支店前で、3人組が現金輸送車を襲撃。運転手らをスプレーで目つぶし、その隙にケースごと現金と有価証券などを奪い逃走した。2年後、仏人マフィア4人組の犯行と判明、仏警察に逮捕された。

読売新聞社

昭和61年 11月

1(土) ●真理の友教会の女性信者七人、病死した教祖の後を追って和歌山市で集団焼身自殺。
●自動車運転中のシートベルト着用が義務化。
2(日) ●生活程度は中流が八七・六%と総理府調査。
3(月) ●町田市に自由民権資料館、開館。
4(火) ●カドミウム汚染農地が一三〇㌶拡大と環境庁。
5(水) ●浜松市の暴力団組長、市民による追放運動で精神的苦痛を受けたと慰謝料請求を提訴。
6(木) ●日産、円高で初めて一九七億円の経常赤字。
7(金) ●大企業の土地譲渡益重課税額が倍増と国税庁。
8(土) ●東北大、世界最強三一・一テスラの磁場発生成功。
9(日) ●劇団四季「キャッツ」、通算一〇〇〇回公演。
10(月) ●フィリピンのアキノ大統領、初来日。政府、四〇〇億円のフィリピン特別借款を約束。
11(火) ●鉄鋼大手五社、円高で戦後最悪の赤字決算。
12(水) ●大阪府警、猟銃二〇〇〇丁を焼却処分。
13(木) ●第一回パチンコ文化賞に土井たか子ら四人。
14(金) ●日米繊維交渉、日本の「総量規制」導入で決着。
15(土) ●マニラ郊外で三井物産の若王子信行マニラ支店長が誘拐される(翌年3月、救出)。
16(日) ●地方公営鉄道は八〇六億円の赤字と自治省。
17(月) ●都内の独居老人世帯は五年で三割増と東京都。
18(火) ●日弁連、国家秘密法制定に反対意見書。
19(水) ●七冠馬シンボリルドルフの種付け料、過去最高の一株二〇〇〇万円で落札。
●ソ連でタクシーなど二九種の個人営業を認可。
20(木) ●大卒男子の生涯賃金二億円突破と生産性本部。
21(金) ●伊豆・大島の三原山が噴火。全島民に避難命令。
22(土) ●マイク・タイソン、最年少のヘビー級王者に。
23(日) ●竜ケ崎市の商店街で、市民五〇〇〇人が長さ一五〇〇㍍の海苔巻き寿司を作る。
24(月) ●美術全集が影ひそめ画家別がさかんと新聞に。
25(火) ●東京の三菱銀行有楽町支店前でスプレー強盗。過去最高の三億三三〇〇万円強奪。
26(水) ●NTT株の申し込み締切り。競争率六・五倍。
●東芝と米モトローラ社、合弁会社設立と発表。
27(木) ●神奈川県警による共産党幹部宅盗聴が発覚。
●長崎県の三菱石炭鉱業高島礦業所、閉山。
28(金) ●参議院本会議、国鉄分割・民営化関連の八法案可決(12月4日公布)。
●石炭鉱業審、国内炭からの撤退示す答申提出。
29(土) ●整備新幹線は赤字必至と大蔵省内部報告判明。
30(日) ●第一回世界駅伝広島大会開催。男子はエチオピア、女子はニュージーランドが優勝。

共同通信社

◀**さらばシンボリルドルフ(12月7日)** 引退式が中山競馬場で行われ、岡部騎手を鞍上に、最後の雄姿を披露した。シンボリルドルフは牡6歳。生涯16戦13勝、日本競馬史上初の7冠を達成し、競馬ブームの主役を担った。

ロイター/サンテレフォト

▲**無給油・無着陸で初の世界一周(12月23日)** 元米空軍中佐と女性操縦士の乗った「ボイジャー」が、9日ぶりに帰国した。同機はエンジンをのぞくと426キロの軽量だったが、翼は長く33.7メートル。

時事通信社

▶**山陰本線で列車転落(12月28日)** 兵庫県余部鉄橋を回送中のお座敷列車7両が、突風で41メートル下の工場に落下。車掌一人と工員5人が死亡、6人重軽傷。強風による停車指令はなかった。

AP/WWP

◀**サハロフ博士夫妻、解放(12月23日)** 1980年以来の流刑地旧ゴーリキー市から、モスクワの自宅に戻った。反体制物理学者解放は、国内民主化の一環だった。

河北新報社

▶**スパイクタイヤ禁止へ(12月)** 人体に有害な粉塵を大量に発生させるため、各地で問題化。平成3年全国で禁止された。写真は仙台市のピン抜き無料サービス。

AP/WWP

▲**ヨーロッパ全土に大寒波(12月)** 下旬に東シベリアでマイナス57度を記録、寒波は次第に西に移り、欧州が数十年ぶりの極寒に包まれた。写真は、すっかり凍りついたエッフェル塔近くのトロカデロ噴水。

昭和61年 12月

1(月) ●新日鉄・川鉄・神鋼、従業員の一時帰休実施。
2(火) ●運輸省、関西新空港建設を許可。
3(水) ●日本全域で酸性雨は日常的現象に、と新聞に。
4(木) ●瀬戸内全域に魚の有機錫汚染拡大と環境庁。
●パリで大学改革法案反対の数十万人デモ(8日、仏政府は法案撤回)。
5(金) ●中国安徽省で学生が民主化デモ(各地へ波及)。
●船井電機、初の家庭用製パン器を発表。
6(土) ●台湾の立法院選挙で新党・民主進歩党が一二議席獲得。国民党の一党独裁崩れる。
7(日) ●第一四回ホノルルマラソン開催。参加九五〇〇人中四〇〇〇人が日本人。
8(月) ●電子図書館「エレクトロニック・ライブラリー」社設立。新聞六〇、雑誌六〇〇を網羅。
9(火) ●ビートたけしら一二人、写真誌「フライデー」編集部に取材法など抗議で乱入、逮捕される。
10(水) ●三井不動産、ニューヨークの五四階建てエクソンビルを六億一〇〇〇万㌦で買収。
11(木) ●韓国の三星精密が日本へカメラ初輸出と発表。
12(金) ●日本PTA全国協がテレビ番組の採点結果発表。ワーストは「オレたちひょうきん族」。
13(土) ●岐阜県の「日本大正村」村長に高峰三枝子就任。
14(日) ●新卒者初任給の男女格差縮小し三㌫と労働省。
15(月) ●全日本柔道連盟と全日本学生柔道連盟の対立で、文部省が仲裁の懇談会設置し初会合開く。
16(火) ●ポケベル事業の東京テレメッセージ㈱発足。
17(水) ●鳥取地裁、夫婦間の婦女暴行罪認め夫に有罪。
18(木) ●日本移植学会、臓器移植推進の統一見解提出。
19(金) ●ソ連の反体制派サハロフ夫妻の国内流刑解除。
20(土) ●大島帰島第一陣が到着(~24日、全員帰島)。
21(日) ●福岡市で一六日以来暴力団抗争銃撃事件が二七件発生。市民含む九人が死傷。
22(月) ●商船三井、戦後初の大型豪華客船発注と発表。
23(火) ●米の実験機「ボイジャー」無給油・無着陸で世界一周飛行に成功(滞空九日間)。
24(水) ●ピアスなど流行で接触皮膚炎が増加と厚生省。
25(木) ●売上税導入で国税庁八〇〇〇人増員と総務庁。
26(金) ●落合博満、中日に移籍し初の一億円選手に。
27(土) ●大卒求人で「男女不問」の企業が倍増と労働省。
28(日) ●山陰本線余部鉄橋走行中の列車七両が突風で転落し工場を直撃。工員五人と車掌死亡。
29(月) ●製造業で三〇万人が雇用過剰にと経企庁予測。
30(火) ●予算案決定。防衛費の対GNP比が一㌫突破。
31(水) ●米の対日貿易赤字五四七億㌦で過去最高。

俄楽多市

▲下町情緒が残る東京都中央区佃1丁目の路地。この年から佃2丁目では、高層住宅群の工事が始まった。
読売新聞社

流行語

〝甘い時代〟の辛い主役

「激辛」。キムチの浸透によって始まった辛いもの志向は、六〇年夏のエスニック料理ブームで、いっきょに社会現象にまで拡大、六一年に入るとインスタントラーメンやカレー、スナック菓子などに激辛商品が続々登場して、「激辛」が時代のキーワードになった。

「元気印」。「朝日ジャーナル」の対談シリーズ「元気印の女たち」から出た言葉で、その語感が時代にマッチし、「元気印の老人たち」「元気印マガジン」など、いろんな元気印が登場した。一方、元気印の女性に対して「疲労印」、「未熟印」の男たちという言い方もなされた。

「究極」。人気グルメマンガ「美味しんぼ」に登場する〝究極のメニュー〟が語源で、「究極のヒマ」「究極のアホ」など、さまざまな形に転用された。

「シルバー産業」。高齢化社会の到来を背景に、シルバー（高齢者）を対象にしたビジネスが台頭してきた。これがシルバー産業で、この年から頻繁に用いられた言葉。中心業務は医療や家庭内看護、マンションだが、難燃性衣料の開発など分野は急速に広がった。

女性

男になんか負けられない「江戸女職人の会」を結成

男の職人に負けない腕を持つ女性たちが集まって、東京・深川で「江戸女職人の会」が結成された。この日集まったのは宝船熊手製作の吉田啓子さん（六五）、組み紐の深井君倭さん（六七）、江戸指し物の木村信子さん（四六）ら一六人。デパートで催される職人展はどこも大にぎわいだが、主役はいつも男。「女だって負けてられない」と会を結成。さっそく近くオープンの錦糸町西武で、「女だけの職人展」を開く約束も取り付けた。会にはべっ甲、象牙細工から風鈴、和紙人形の女職人も参加。女の職人技を世に問うという。

（「朝日新聞」九月五日）

社会

作り笑いもいつか本物「笑顔教室」が大ブーム

〔大阪発〕大阪で「笑顔教室」が人気。二月から神戸に分教場を開設したほか、ビデオを社員研修に取り入れる大手企業が相次いでいる。教室を始めたのは近藤友二さん（五四）。猛烈サラリーマンだった近藤さんは家ではいつも仏頂面、家族とも断絶状態だった。「これではいかん。作り笑いでもいいから笑顔で帰ろう」と思いたち、実行するうちに自然と笑えるようになった。これにヒントを得て六〇年九月に開設したのがこの教室。

入会金はなく、受講料は一回五〇〇〇円で「自分が心から笑えた」と思ったら卒業OK。最近は大手企業からのビデオ申し込みや講演依頼が引きもきらない。

（「大分合同新聞」二月五日）

▲車田正美作「聖闘士（セイント）星矢」の連載が、「少年ジャンプ」第1・2合併号よりスタート。主人公の必殺技〝ペガサス流星拳〟が、子どもたちの間で流行語に
©車田正美／集英社

CM100年 タレント・斎藤晴彦

テレビCF 「〝国際ダイヤル通話〟コンサート」（KDD）

▲深夜割引などのサービス内容を、斎藤晴彦がオーケストラをバックに歌うCF。

自然

東大の植物園で花開いたニュートンのリンゴの木

ニュートンがリンゴの実が落ちるのを見て、万有引力の法則を発見したことはあまりにも有名だが、あのニュートンのリンゴの木が東大理学部の植物園で初めて花を咲かせた。原木は一八一四年に枯れてしまったが、イギリスでは枯れる前に接ぎ木でふやし、そのうちの一本の苗が昭和三九年、日本に贈られた。この苗もウイルスに冒されていたが、同植物園では二〇年以上かけて健康な木作りに成功、薄いピンクの花が初めて開いた。

（「神戸新聞」五月二日）

三面記事

〝禁酒の酒がめ〟が全国人気

▲横須賀市役所に設置されて以来、市民の人気を集めるからくり時計。
読売新聞社

〔山形発〕鶴岡市金峯神社の登り口にある〝禁酒の酒がめ〟が大変な人気を呼び、今では全国から祈願者が絶えない。このかめは周囲二メートルほどの石造り。二〇〇年ほど前、酒びたりの夫に悩んだ女性が金峯神社に夫の酒断ちを祈願に来た帰り、酒のたっぷり入ったこのかめを見つけ、「えーい、憎々しい！」と紙で封をしたところ、その夜から夫の酒がぴたりと止まったと伝えられている。

以来、地元では人目を避けて、こっそりおまいりに来る人が絶えなかったが、最近は広くその名が知れわたり、全国から参拝者がやって来るようになった。特に女性が神社に祈祷料を送ってきて、自分の酒断ちを依頼するケースが急増しており、神社ではそのたびに神紙と糸で酒がめに封をする神事を行っているという。

（「山形新聞」一月二一日）

▲宝酒造は二月三日、微量のアルコール分を含む低カロリー飲料「TaKaRaバービカン」を発表、一五〇円。

風俗

三組に一組は不倫客 東京ラブホテル事情

ラブホテルで不倫客が急増している。東京・渋谷のあるラブホテルには一日一〇〇組の客があるが、その中で人妻と思われる客が三〇組以上。人妻の不倫には一定のパターンがあって、午前中か昼間、デパートの紙袋を持ってやって来る。この紙袋は夫へのアリバイ用。そして終わった後は、かならずベッドの蒲団を直して帰る。これは人妻の見栄で、アリバイ作りとベッド直しをやらなくなったら不倫慣れしてきた証拠。もうひとつ、意外に多いのが不倫の証をノートに記すことで、特に初めての人妻に目立つ。他人に言えない秘かな喜びをノートに表現しているという。

（「サンケイスポーツ」六月一日）

はやり歌

えとせとらレコード博物館提供（2点とも）

▲吉幾三が歌ってヒット。〝ふるさと演歌〟の定番と目されるほどのロングセラーになった。

雪國

作詞 吉 幾三
作曲 吉 幾三
編曲 京 建輔

好きよあなた　今でも今でも
暦はもう少しで　今年も終りですね
逢いたくて恋しくて　泣きたくなる夜
そばにいて少しでも　話を聞いて
追いかけて　追いかけて
追いかけて……雪國

窓に落ちる　風と雪は
女ひとりの部屋には　悲しすぎるわあなた
酔いたくて泣きたくて　ふるえるくちびる
そばに来て少しでも　わがまま聞いて
追いかけて　追いかけて
追いかけて……雪國

時の流れに身をまかせ

作詞 荒木とよひさ
作曲 三木たかし
編曲 川口 真

もしも　あなたと逢えずにいたら
わたしは何を　してたでしょうか
平凡だけど　誰かを愛し
普通の暮し　してたでしょうか
※時の流れに　身をまかせ
あなたの色に　染められ
一度の人生それさえ
捨てることもかまわない
だから　お願い　そばに置いてね
いまは　あなたしか　愛せない

もしも　あなたに嫌われたなら
明日という日　失くしてしまうわ
約束なんか　いらないけれど
想い出だけじゃ　生きてゆけない
時の流れに　身をまかせ
あなたの胸に　より添い
綺麗になれたそれだけで
いのちさえもいらないわ
だから　お願い　そばに置いてね
いまは　あなたしか　見えないの
※くりかえし

▲テレサ・テンが歌い、この年の日本有線大賞に。「つぐない」「愛人」に続く受賞だった。

事件

「家族は海の中に」祈禱師の予言適中！

〔福島発〕福島県いわき市で母子四人が行方不明になった。夫が祈禱師に占ってもらったところ、「海にいる」というお告げ。そのお告げに従って海をさがし、同市の埠頭で車ごと海に沈んでいるのを発見した。この母子は一週間ほど前、身のまわりのものを車に積んで家出、夫が警察に捜索願いを出す一方、親戚総出でさがしていた。祈禱師のお告げどおり、埠頭をさがしていると海面から白いアワが出ているのを発見、車はその下に沈んでいたという。

（「福島民報」一二月二二日）

データ

パトカーが到着するまで平均所要時間四分二八秒

一月一〇日は初めての〝一一〇番の日〟。これにちなんで、警察庁が一一大都市のパトカーの現場到着時間（レスポンスタイム）を発表した。

①東京二三区＝三分三四秒、②大阪市＝四分一四秒、③名古屋市＝四分四三秒で、平均四分二八秒。どん尻は広島市で六分一二秒と、平均より一分半以上もよけいにかかっていた。

（「神奈川新聞」一月一一日）

この年の初もの

長野県戸狩スキー場に登場した〝スキー地蔵〟

●移動散髪屋　バンの中に散髪用の椅子をはめこんだもので、徳島市に登場。病院や寝たきり老人のいる家で大好評。

●暴力団追放の歌　兵庫県警がレコード化し、防犯協会や飲食店組合に配布。

●モーニングコール引受業　東京と長崎にオープン。かけ手は現役の女子大生か高校生で、客はハスキー、ぶりっ子など、好みの声を選ぶことができる。

▶埼玉県の大宮駅近辺の商店会が、二本の街灯に貼りつけた実物大昆虫シール
読売新聞社

「ユッコは飛んだ」が社会現象に
アイドル・岡田有希子自殺！
その後を追った若者たちの"心の奥"

昭和六一年四月八日、身長一五五チセン、体重四一キロの一八歳の少女が、都心のビル屋上から身を投げた。普通の女子高生なら、思春期の衝動自殺でかたづけられたはずの出来事も、少女が"ポスト松田聖子のホープ"と言われた人気アイドルだっただけに、その死はさまざまな波紋を投げかけることになった。

▲自殺現場の路上にうずくまり、地面に額をこすりつけて嗚咽する若者たち。

舗道には花束が積まれ、たちまち山をなした。　読売新聞社

"アイドルに戻れない"と四谷のビル屋上から投身

「岡田有希子(ゆきこ)が自殺未遂をしたとの急報を受け、所属事務所に問い合わせたんですが、様子がよくわからない。そこで知りあいの記者に『運ばれた病院を教えてくれ』と電話したんです。その時、飛びこんできたのが『何言ってんだ。今、ビルから飛び下りたんだよ』。とっさに、"えらいことになった"と思いました」

当時、女性誌の記者だったテレビ朝日「ワイド！　スクランブル」のリポーター・荒木茂彦氏は、あの日の衝撃を今もはっきりとおぼえていると言う。

昭和六一年四月八日、人気アイドルの岡田有希子（一八）が、所属プロダクションが入居する四谷四丁目のビル屋上から、約二〇メートル下の舗道に投身自殺した。

実は当日の午前一〇時前、彼女は自室でガス栓を開けて手首を切ったところを発見されていた。幸い軽傷ですみ、病院から連れてこられた四谷の事務所で泣きじゃくっていた頃、自殺未遂の真偽を確かめる電話取材をした荒木氏は、「たんなるガスもれ事故です。今、岡田も会社にいて元気ですから、ご心配なく」というサンミュージック側の説明を受けている。

しかし、そのやり取りの直後、一瞬の隙(すき)をねらって屋上へ上がった彼女は、金網を越えて真昼の舗道へジャンプした。時刻は午後零時二〇分。最後の言葉は、「ティッシュを取ってくる」だった。

「みんなに未遂事件が知れたら、二度とアイドルに戻れないと絶望したのかもしれません。『今度は確実に死のう』と身を投げたのでしょう」と荒木氏は振り返る。

岡田有希子は即死。幼い頃から歌手にあこがれ、やっとアイドルの座を手に入れた彼女の、孤独で哀れな最期だった。自殺の原因については、日記や遺書に名前が書かれていた年上俳優への失恋説が有力視されたが、真相は今もわかっていない。

▲岡田有希子が屋上から飛び下りた四谷の大木戸ビル。　共同通信社

熱烈なファンたちに後追い自殺が続出

岡田有希子こと本名・佐藤佳代が芸能界入りするきっかけは、テレビ番組「スター誕生！」だった。平凡な家庭で育った彼女は、親から出された「学年で一番の成績を取る」などの"デビューの三条件"を持ち前のがんばりでクリア。昭和五九年四月二一日、一六歳の時に「ファースト・デイト」という曲でデビューする。

一年目に新人賞をほぼ総ナメにし、その後も、写真集・エッセイの出版、製菓会社や製薬メーカーとのCM契約、NHK大河ドラマへの出演とスター街道を驀進(ばくしん)した。天性の芸能感覚で昇りつめた松田聖子とは対照的に、ひたむきな努力、庶民的な笑顔で、"ポスト聖子のホープ"と言われる人気を獲得したのである。

それだけに、突然の自殺は全国に約二〇〇万人と言われた熱烈な"ユッコ"ファンに深刻なショックを与えた。四月八日の深夜に現場へ駆けつけ、嗚咽(おえつ)をもらして路上の血痕に頬ずりする少年たち。一〇日に中野・宝仙寺(ほうせんじ)で行われた葬儀には三〇〇〇人のファンが集まった。

▶前年七月、メガロポリス歌謡祭で、優秀ポップス賞を受賞。

外から見たNIPPON

アフリカ諸国からの留学生が語る「日本で頭にくること」

佐伯 修

この年、東京では、ケニアの画家カマンテの作品展が開かれ、パパ・ウェンバ&ヴィヴァ・ラ・ムジーカ（ザイール）、ザイコ・ランガ・ランガ（同）、レンヌ・ペラジ（コートジボワール）といった、アフリカの大物ミュージシャンたちの来日も相次いだ。ちょっとしたアフリカ・ブームだったとも言える。また、人種隔離政策（アパルトヘイト）をとる南アフリカ共和国への経済制裁や、慢性的なアフリカの飢饉に関するニュースも、毎日のように流されていた。しかし、一般の日本国民にとって、アフリカ、とりわけそこに暮らす人々のことは、あいかわらず縁遠かったのではないだろうか。

アフリカ諸国の人々にとっても、事情は大同小異だった。この年、社団法人アフリカ協会の機関誌「月刊アフリカ」六月号は、「在日アフリカ人の見た日本」という特集を組んでいるが、その中の留学生座談会で、拓殖（たくしょく）大学政経学部に学ぶアクル・エリンギ・ジャクリーン（ガボン）は言う。

「私も日本人のことは知らないで日本に来た。経済のことを知るチャンスはあったけど、日本人と話をすることもなかったから、本当の日本のことは何も知らなかった」

ちなみに、彼女の留学先を決定したのは国家で、彼女たち、新興アフリカ諸国の知的エリートの立場が楽ではないこともうかがえる。それはともかく、ほかの留学生たちにとっても、来日以前の日本のイメージとは、たとえば北里大学医学部で眼科の研修を受けるベナウダ・ベンジミラード（アルジェリア）があげる「キモノ、ゲンバク、サシミ、スシ」に関する断片的な知識か、さもなければ、自動車など便利な「日本製品」の製造元程度のものでしかなかった。

さて、ジャクリーンは、日本での「頭にくること」もあげている。たとえば、

「『動物が好きだからアフリカという〝国〟へ行きたい』と言う女の子がいたよ。アフリカというのはひとつの国じゃなくてたくさんの国があるのに、知らないんだ」

「日本はブッシュマンを連れてきたでしょ。テレビに出したりして。なんで文化や習慣を壊すようなことをするんだ」

「日本の学生は、もっと自分の国の歴史や文化を勉強した方がいいと思うよ。だって、私が歴史や文化のことを質問したって答えてくれない。質問をしたのは大学生にだよ」

彼女の苦言は、まだ続く。が、そんな彼女は、同時に、ガボンと日本の交換留学生制度作りの夢も語っている。日本への不満は不満として、一人のアフリカ女性に、日本との相互理解への意思が芽生えたのだ。

「月刊アフリカ」／アフリカ協会提供

▶帰国したら「銀行につとめたい」ジャクリーン。

ところが、悲劇のアイドルを追悼する〝セレモニー〟はそれからが本番だった。

四月一四日に一七歳少年がはかったガス自殺を皮切りに、翌一五日には神戸で一六歳少女が「有希子さんみたいになりたい」とマンションから飛び下りて即死、五月二日には親衛隊だった二一歳の青年がブロマイドを胸に投身といった具合に、彼女の後を追うように若者の自殺が続出。昭和六一年四月だけで、前年同時期の二倍以上にあたる一一四人（二〇歳未満）がみずから命を絶ったのである。

この後追い自殺について、心理学者の福島章・上智大学教授はこう指摘する。

「〝自殺予備軍〟はどの時代にもいますが、高度成長にかげりが見え始めた当時は、学歴社会で〝上昇〟を期待され続ける若者が、『いじめ』や受験などの難問から〝降りる〟ために安易に命を絶つ傾向が目立っていました。その中で、人気アイドルが致死率が高い投身を選んだのは、あまりに衝撃的だった。アイドルの言動はマネされるという原則がありますが、彼女の死が引き金となって、それぞれに事情を抱えていた〝自殺予備軍〟――テレビゲームに氾濫する死と、命の終わりとしての死を区別できない若者たち――を模倣へと走らせたのでしょう」

一方で、この現象を、過渡期にあった芸能界ならではの現象とみる向きもある。

昭和五〇年代後半に松田聖子や中森明菜などの大物が頻出（ひんしゅつ）した芸能界は、昭和六〇年、おニャン子クラブの出現によって激震に見舞われていた。

「たしかにこの頃から、〝原石〟をさがしてレッスンで磨き、年末の賞をねらえるような人気歌手に育てる従来路線に、素人を即席で送りこむ図式が加わり、売り出し方もアイドル像も、ファンの嗜好（しこう）も多様化し始めた」と語るのは、アイドル雑誌「ボム」の樋原知則編集長だ。

そんな激動期の芸能界にあって、伝統的アイドルであり続けようとしたのが岡田有希子だったのである。

「彼女は、身を削る努力が少女をスターに変身させたなどの神話が、スターの条件だった時代の最終走者でした。だからこそ岡田有希子の自殺に、多くのファンが自己を投影したんです。実際にこれ以降、芸能人スキャンダルは衰退の一途をたどることになります」（荒木氏）

「アイドルは絶対にファンの手に入らない幻想」（樋原氏）だとしたら、岡田有希子は、皮肉にも自殺で正統派トップアイドルの座を手に入れたのかもしれない。

▶四月一〇日に行われたサンミュージック社葬。駆けつけるファンのため、献花壇が特設されていた。

報知新聞社

往きて還らぬ

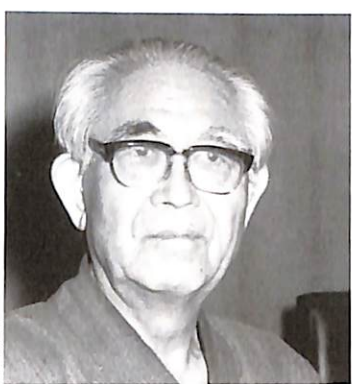
共同通信社

▲10月14日　荻須高徳（おぎすたかのり）(84)
洋画家。戦前・戦後のパリの古い街並みを描き続けた。代表作に「プラス・サーンタンドレ」など。死後文化勲章受章。

▲7月27日　木原均（ひとし）(92)
遺伝学者、元京大教授。小麦の遺伝学的研究の世界的権威。昭和23年文化勲章受章。全日本スキー連盟会長。

▲4月14日　S・ボーヴォワール(78)
仏の作家、評論家。女性論『第二の性』(1949年)で世界的に知られる。1966年、パートナーのサルトルと来日。

◀11月29日　ケーリー・グラント(82)
映画「泥棒成金」で知られるハリウッドの二枚目スター。一九七〇年アカデミー特別賞受賞。写真左側。

共同通信社

▲4月25日　古賀忠道（ただみち）(82)
元上野動物園園長。昭和12年園長に就任、かたわら野生動物保護に尽力。全国の動物園に〝パンダ募金箱〟を設置。

▲1月16日　梅原龍三郎(97)
画家。昭和期の代表的な洋画家の一人。豊麗な色彩感覚が特徴で、昭和27年文化勲章受章。代表作「富士山図」など。

時事通信社

▲11月14日　円地文子（えんちふみこ）(81)
作家。昭和3年戯曲「晩春騒夜」発表。戦後『ひもじい月日』『女坂』などで人気作家に。昭和60年文化勲章受章。

◀6月13日　ベニー・グッドマン(77)
米のクラリネット奏者。卓越した技巧でスウィング・ジャズの全盛期を築き、〝スウィングの神様〟と呼ばれた。

共同通信社

▲2月21日　泉重千代（しげちよ）(120)
〝長寿世界一〟。慶応元年、鹿児島県生まれ。114歳から死亡するまで、世界最高齢者として「ギネスブック」に掲載された。

▲12月25日　梅沢浜夫（うめざわはまお）(72)
微生物学者。抗生物質研究の第一人者。戦後結核に有効なカナマイシンなどを発見。昭和37年文化勲章受章。

▲10月7日　石坂洋次郎(86)
作家。昭和22年『青い山脈』で爆発的人気を得て、流行作家に。昭和41年菊池寛賞受賞。戦前の代表作は、『若い人』。

▲6月26日　前川國男（くにお）(81)
建築家。日本の近代建築界のリーダー。代表作に皇居前の東京海上火災ビルなど。丹下健三ほか著名な弟子も多い。

▲3月26日　原弘（ひろむ）(82)
グラフィック・デザイナーの草分けで、武蔵野美大名誉教授。〝ブックデザインの神様〟と言われ、後進も育てた。

ミニ事典

1986年のキーワード

日本プロ野球選手会

日本のセ・パ両リーグ球団に所属するプロ野球選手の労働組合。任意加盟制。前年一一月に東京地方労働委員会が認可。この年一月九日、第一回臨時大会を開催した。初代会長は巨人の中畑清。プロ野球機構側に、選手が一定の条件のもとで自由に移籍できるFA（フリー・エージェント）制度を実現するなど、米大リーグに比べて立ち遅れていた選手の要求が認められるようになった。

短期国債

償還期間一年以内の割引方式で発行される借り換え国債。法人向けで、個人は買うことができない。この年から始まった大量の国債償還や、借り換えを円滑にするために実施された。二月一三日に発行された償還期間六ヵ月の割引債が第一回。最低額面と取引単位は一億円で、価格競争入札方式で公募、金利は市場実勢に応じて決定された。

前川リポート

中曽根康弘首相の私的諮問機関「国際協調のための経済構造調整研究会」が、四月七日に答申した報告書。座長の日銀前総裁・前川春雄の名を取って「前川リポート」と呼ばれた。日本の貿易黒字増大に対する欧米の強い批判にこたえたもので、経済構造を早急に輸出依存型から、内需主導型に改める必要があるとし、経済政策の目標となった。

路上観察学

建築物、マンホールの蓋、ポスターなど、路上からうかがえる都市のすべてを観察し記録する考現学。関東大震災後の東京の風俗を、スケッチ・採集した考現学の今和次郎がルーツ。この頃、ビルの新築や建て替えで、都市の風景が著しく変貌しており、都市論・東京論もさかんだった。六月一〇日には作家・荒俣宏、東大助教授・藤森照信、画家・赤瀬川原平、イラストレーター・南伸坊ら一五人が、路上観察学会を発足させた。

共同通信社

▲東京・神田の学士会館で格調高く発会式をあげ、全員で記念撮影。中央が赤瀬川。

「北方ジャーナル」訴訟

昭和五四年の北海道知事選で、立候補予定者の中傷記事掲載誌を発行しようとして、札幌地裁に発刊停止の仮処分を受けた北方ジャーナル社が、国などに損害賠償を求めた訴訟。最高裁は六月一一日、「表現の自由」の原則を初めて認め、訴訟に関しては「被害者に損害を与えるおそれがある時は、例外的に差し止めが許される」として上告を棄却、「表現の自由」も無制限ではないとした。

日米半導体交渉

昭和六〇年以来行われてきた、半導体についての日米政府間交渉。通商法三〇一条（不公正貿易慣行）に基づき、日本の輸出メーカーが米通商部へ提訴されたことがきっかけとなった。七月三一日、以後五年間にわたり日本市場への米製品の参入・拡大をはかるなどで合意に達したが、平成三年、さらに外国製半導体の日本市場でのシェアを、二〇パーセントとすることが明記された。

戦略防衛構想（SDI）

レーガン米大統領が、一九八三年三月に提唱、スターウォーズ構想とも言う。増大するソ連の戦略ミサイルに対抗するシステムを研究・開発する計画。九月九日、日本は閣議で参加を決めた。ミサイルを迎撃するレーザー衛星や、ビーム兵器開発などがおもな目標で、各種の最先端技術と巨額な資金を要するため、米国内でも現実性に乏しいとの批判が強かった。一九九三年に中止された。

ウルグアイ・ラウンド

国際経済の流動化・多様化にともなう新たな貿易ルール作りをめざして、ガット（関税貿易一般協定）閣僚会議が主導した多角的貿易交渉。九月二〇日に南米のウルグアイで開始宣言。以後、八年におよぶ交渉のすえ、平成六年に合意。各国の関税引き下げや、農業障壁の撤廃によって世界貿易の拡大をはかること、またサービス貿易や知的財産権など新分野へのルール導入も決めた。

財テクブーム

読売新聞社

▲大蔵省がNTT株の競争入札を提示。右には大口投資家の名が見える。

余った資金を株や債券、土地などに投資し、本業以外で利益を得ること。「財テク」とは財務テクノロジーの略で、有利な資金運用法とみなされ、三月には上場企業の四分の一が実施、以後もふえ続けた。また、一〇月二九日大蔵省の行ったNTT株の競争入札では、なんと一株額面五万円が一一九万七〇〇〇円にもなり、抽選倍率は六倍を超えた。財テクは企業ばかりでなく一般にも浸透していることが証明された。

共同通信社

▲レーガン大統領は、会見でイランゲートの関与を認め、政権の危機に直面した。

イランゲート事件

米政府がレバノンの米人人質解放の仲介をイランに依頼、引き替えに武器を供与したとされる事件。その代金のニカラグア反政府ゲリラへの横流しも暴露された。レーガン大統領は一一月二五日、国家安全保障会議が独自の判断で計画・実行したとして、ポインデクスター補佐官、軍政部次長のノース中佐を解任した。ウォーターゲート事件と異なり、大統領の責任を問う声は少なかった。

民活（民間活力導入）

国や地方自治体が行う事業に、民間資金や能力を導入すること。また、この年五月公布の「民活法」による事業。政府は、大量の国債を抱えた財政支出に代え、民間資金によって大型事業を起こすことで、懸案の貿易黒字解消をねらった。一二月一四日、奈良県が民活促進のため、商業地域の建物の高さ制限を、二五メートルから四〇メートルに緩和するなど自治体も活発だった。関西新空港、東京湾横断道路などが代表的な事業。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1986

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘
結城順一　吉田忠正

●写真協力
阿部勝征　大江正治　大野和基　岡村啓嗣　奥村健太郎　押原譲
車田正美　イゴール・コスチン　鈴木幸輝　高山景司　竹内敏信
但馬一憲　豊崎博光　平野禎邦　平野順子　藤内弘明　アロン・ライニンガー　渡部純一
朝日新聞社　インペリアル・プレス　AP　河北新報社　キネマ旬報社　共同通信社　サンテレフォト　時事通信社　集英社　タス
中国新聞社　デイリースポーツ　日刊スポーツ　日本電波ニュース社　ノーボスチ通信社　PANA通信社　報知新聞社　Poppe rfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　読売新聞社　連合通信社　ロイター　WWP
松竹
アフリカ協会　えとせとらレコード博物館　東大地震研究所

定価560円

雑誌 23713-4/21
Ⓛ-2001/1/1
T1123713040565

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社